

マークをクリックするとそのページを見ることができます



発生動向総覧
P.2-4

< 第9週 > マイコプラズマ肺炎の定点当たり報告数は増加し、過去5年間の同時期と比較してかなり多い / その他最新動向



注目すべき感染症
P.5-7

< インフルエンザ >

第9週の全国レベルの定点当たり報告数は50.0に達し、今シーズンの最高値を更新した



病原体情報
P.8-9

インフルエンザウイルス 2004/05シーズン / 冬季の感染性胃腸炎関連ウイルス 2004/05シーズン



速報
P.10-13

パラチフス 2004年(2005年2月16日時点) / ノロウイルスによる食中毒事例、2004年 - 大阪府



海外感染症情報
P.14-15

コンゴ民主共和国におけるペスト / ベトナム: 鳥インフルエンザ



感染症の話
P.16-18

< 発しんチフス > シラミによって媒介されるリケッチア症で、戦争、貧困、飢餓など社会的悪条件下で流行することが多い



読者のコーナー
< 今週は該当記事はありません >



グラフ総覧(9週)
P.19-25



9週のデータ
P.26-37



発生動向総覧

*「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律」の改正(平成15年11月5日施行)により、対象疾患、分類が一部変更されました(2003年第43号「速報」参照)。

<第9週コメント> 3月9日集計分

全数報告の感染症

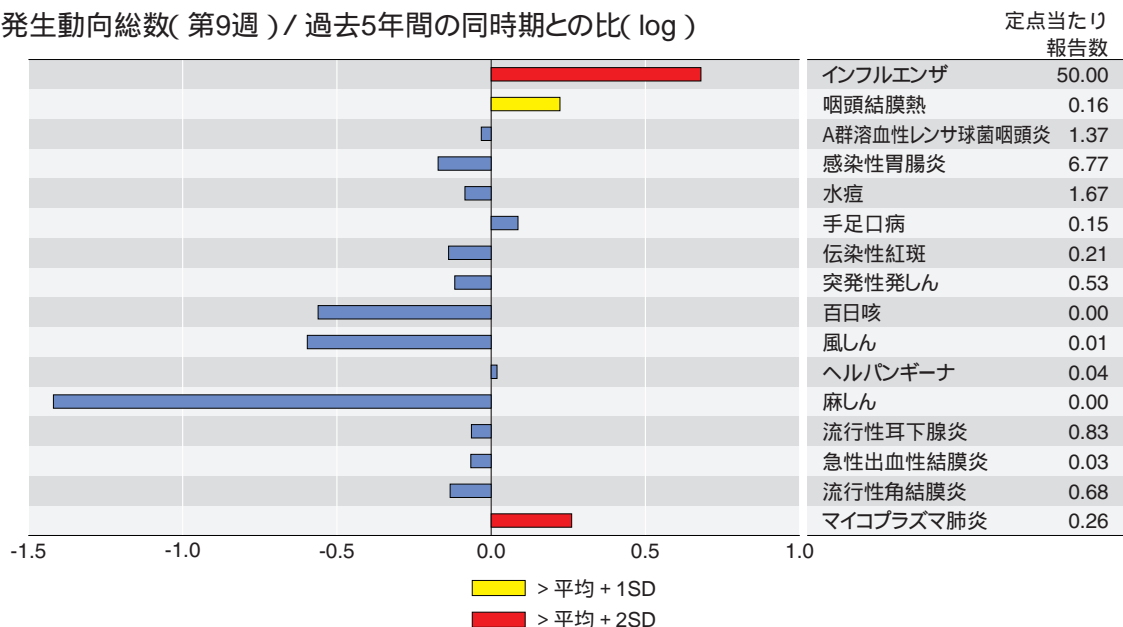
注意:これは当該週に診断された報告症例の集計です。しかし、迅速に情報還元するために期日を決めて集計を行いますので、当該週に診断された症例の報告が、集計の期日以降に届くこともあります。それらについては、発生動向総覧では扱いませんが、翌週あるいはそれ以降に、巻末の表の累積数に加えられることになります。宜しく御理解下さい。

- 1類感染症: 報告なし
- 2類感染症: 細菌性赤痢 8例(推定感染地域: インド4例、インドネシア3例、ケニア1例)
腸チフス 2例(推定感染地域: インドネシア1例、パキスタン1例)
- 3類感染症: 腸管出血性大腸菌感染症 6例(うち有症者5例)
血清型・毒素型: O157 VT1・VT2(3例)、O26 VT1(2例)、O111 VT1(1例)
年齢: 10歳未満(2例)、30代(2例)、50代(1例)、70歳以上(1例)
- 4類感染症: デング熱 1例(推定感染地域: インドネシア)
マラリア 1例(型不明_推定感染地域: インド)
レジオネラ症 1例(50代)
E型肝炎 1例(推定感染地域: 国内、推定感染源: 猪肉)
- 5類感染症: アメーバ赤痢 4例
推定感染地域: すべて国内
推定感染経路: 経口2例、不明2例
ウイルス性肝炎 1例(B型_推定感染経路: 性的接触(異性間))
クリプトスポリジウム症 1例(推定感染地域: インド)
クロイツフェルト・ヤコブ病 1例(孤発性)
後天性免疫不全症候群 17例(無症候10例、AIDS 5例、その他2例)
推定感染経路: 性的接触15例(異性間3例、同性間10例、異性間/同性間2例)、不明2例
推定感染地域: 国内13例、その他1例、不明3例
ジアルジア症 2例(推定感染地域: アフガニスタン1例、不明1例)
梅毒 4例(すべて早期顕症I期)
破傷風 1例(50代)
バンコマイシン耐性腸球菌感染症 1例
(遺伝子型: VanC__菌検出検体: 血液)
急性脳炎 6例(A型インフルエンザウイルス1例(2歳)、B型インフルエンザウイルス4例(2歳、6歳、40代、60代)、病原体不明1例(80代))
(補)他に報告遅れとして、劇症型溶血性レンサ球菌感染症1例(90代、死亡)、急性脳炎8例(A型インフルエンザウイルス1例(6歳)、B型インフルエンザウイルス3例(2歳、4歳、5歳)、単純ヘルペスウイルス1例(60代)、病原体不明3例(0歳1例、30代2例))の報告があった。

定点把握の対象となる5類感染症

全国の指定された医療機関(定点)から報告され、疾患により小児科定点(約3,000カ所)、インフルエンザ(小児科・内科)定点(約5,000カ所)、眼科定点(約600カ所)、基幹定点(約500カ所)に分かれています。また、定点当たり報告数は、報告数/定点医療機関数です。

発生動向総数(第9週)/過去5年間の同時期との比(log)



当該週と過去5年間の平均(過去5年間の前週、当該週、後週の合計15週の平均)の比を対数にてグラフ上に表現した。1標準偏差を超えた場合黄で、2標準偏差を超えた場合赤で色分けしている。

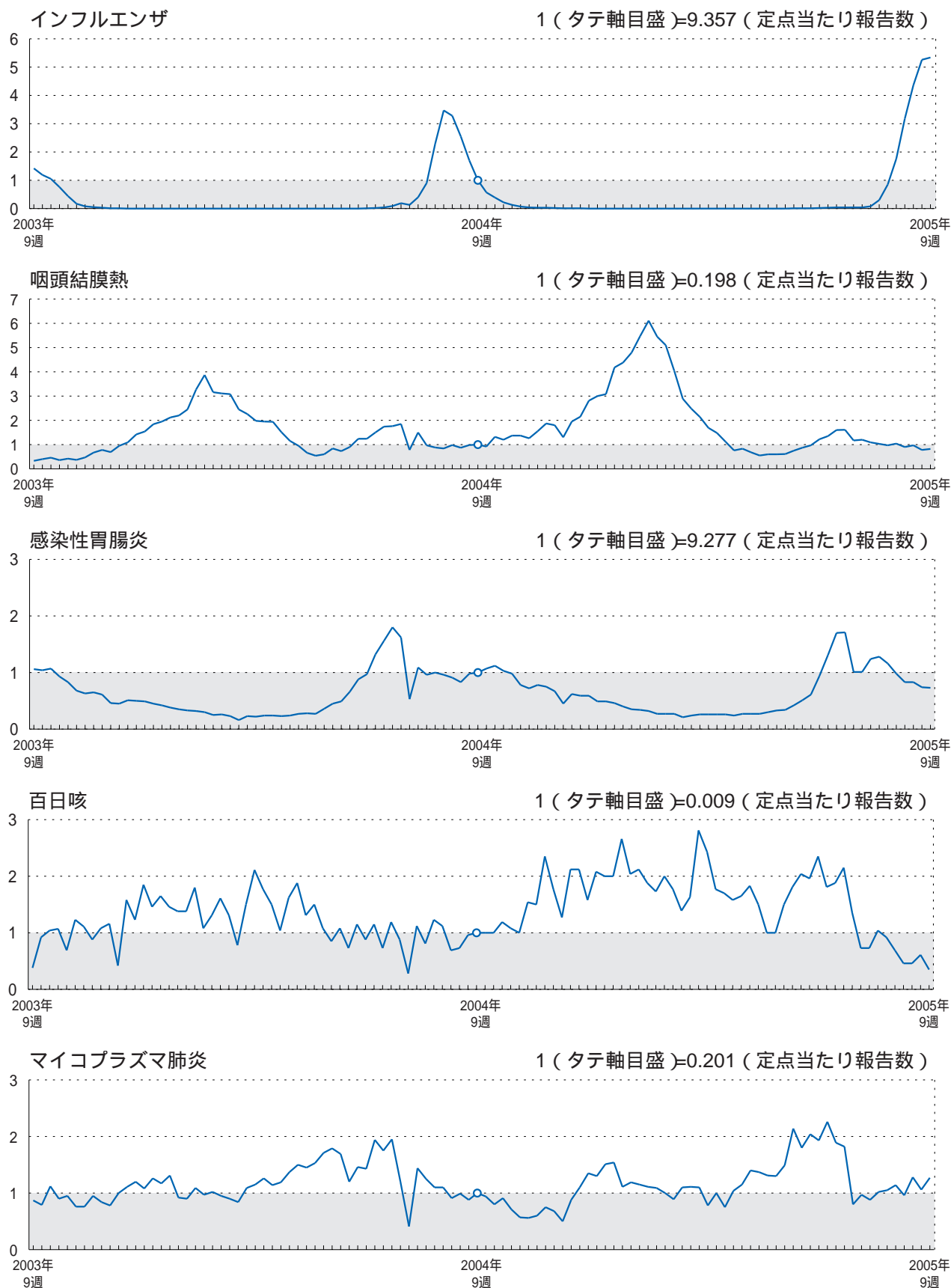
インフルエンザ定点報告疾患: 定点当たり報告数の増加の幅はかなり小さくなったものの、今シーズンの最高値をさらに更新した。過去5年間の同時期(前週、当該週、後週)と比較してもかなり多い。都道府県別では福井県(81.3)、長野県(76.3)、新潟県(75.5)、熊本県(73.5)、石川県(71.9)、山口県(71.6)、長崎県(70.6)、北海道(66.2)、宮崎県(64.5)が多い。

小児科定点報告疾患: 咽頭結膜熱の定点当たり報告数は微増した。過去5年間の同時期と比較してやや多く、都道府県別では福井県(0.68)、秋田県(0.57)が多い。A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり報告数は減少した。都道府県別では山形県(3.1)、富山県(2.9)、北海道(2.6)が多い。感染性胃腸炎の定点当たり報告数は第3週以降減少が続いている。都道府県別では福井県(18.2)、宮崎県(14.9)、大分県(12.2)が多い。水痘の定点当たり報告数は3週間連続で減少が続いている。都道府県別では沖縄県(4.1)、宮崎県(3.5)、福岡県(2.9)が多い。手足口病の定点当たり報告数は微減した。都道府県別では徳島県(1.13)、島根県(0.57)が多い。百日咳の定点当たり報告数は微減した。都道府県別では熊本県(0.04)、奈良県(0.03)、和歌山県(0.03)、大分県(0.03)が多い。風しんの定点当たり報告数は微減した。都道府県別では青森県(0.05)、石川県(0.03)、高知県(0.03)、沖縄県(0.03)が多い。麻しんの定点当たり報告数は微増した。都道府県別では秋田県(0.03)、福島県(0.02)、千葉県(0.02)、岡山県(0.02)が多い。流行性耳下腺炎の定点当たり報告数は減少した。都道府県別では福井県(5.4)、佐賀県(2.7)、熊本県(2.1)が多いが、福井県では2004年第42週以降、高値が続いている。RSウイルス感染症は、ゼロ報告を含めて33都道府県から80例の報告があり、報告数はほぼ横ばいであった。年齢別では、1歳以下が全体の65%である。

基幹定点報告疾患: マイコプラズマ肺炎の定点当たり報告数は増加した。過去5年間の同時期と比較してかなり多く、都道府県別では山形県(1.10)、岡山県(0.80)、長野県(0.73)が多い。

図. 主要疾患の過去2年間の週別定点当たり報告数の動き(第9週)

2004年9週の定点当たり報告数を1として各週の報告数値を換算し、主要疾患の過去2年間の増減を表している。





注目すべき感染症

インフルエンザ

2005年第9週の全国定点医療機関からのインフルエンザ報告数は235,343、定点当たり報告数は50.0に達し、第3週以降続いていた大幅な増加はおさまったものの、今シーズンの最高値を更新した。今シーズンは例年より流行開始は遅かったものの、過去10シーズンのピーク値と比較して3番目のレベルにあり、大きな流行となっている(図1)。定点当たり報告数が60を超えているのは、福井県(81.3)、長野県(76.3)、新潟県(75.5)、熊本県(73.5)、石川県(71.9)、山口県(71.6)、長崎県(70.6)、北海道(66.2)、宮崎県(64.5)、富山県(63.4)、高知県(62.0)、秋田県(60.9)の12道県、50を超えているのは25道県にまで広がり、全国的な流行が続いている(図2)。

一方、前週より定点当たり報告数が減少しているのは、茨城県、栃木県、群馬県、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県、静岡県、愛知県、三重県、大阪府、佐賀県、宮崎県、鹿児島県の14都府県であり、関東地方、東海地方では流行のピークを過ぎたものと考えられる(図3)。

B型インフルエンザウイルスの分離報告数が半数以上(約62%)を占めているが(本号8ページ「病原体情報」参照)、AH3型がそれに続いており(図4)、AH3型インフルエンザの発症者数も例年と比較して少なくはないと思われる。

流行の増大に伴って、インフルエンザ脳症の報告数も増加してきている(IDWR全数報告の感染症:第5週、第7週、第8週、第9週参照)。インフルエンザ脳症はインフルエンザ発症後の合併症であり、診断までに時間を要する場合も多く、報告は遅くなる傾向がある。したがって、今後さらに報告数が増加する可能性がある。同様に、高齢者における超過死亡における増加も危惧される。

図1. インフルエンザのシーズン別・週別発生状況(1994/95シーズン～2005年第9週)

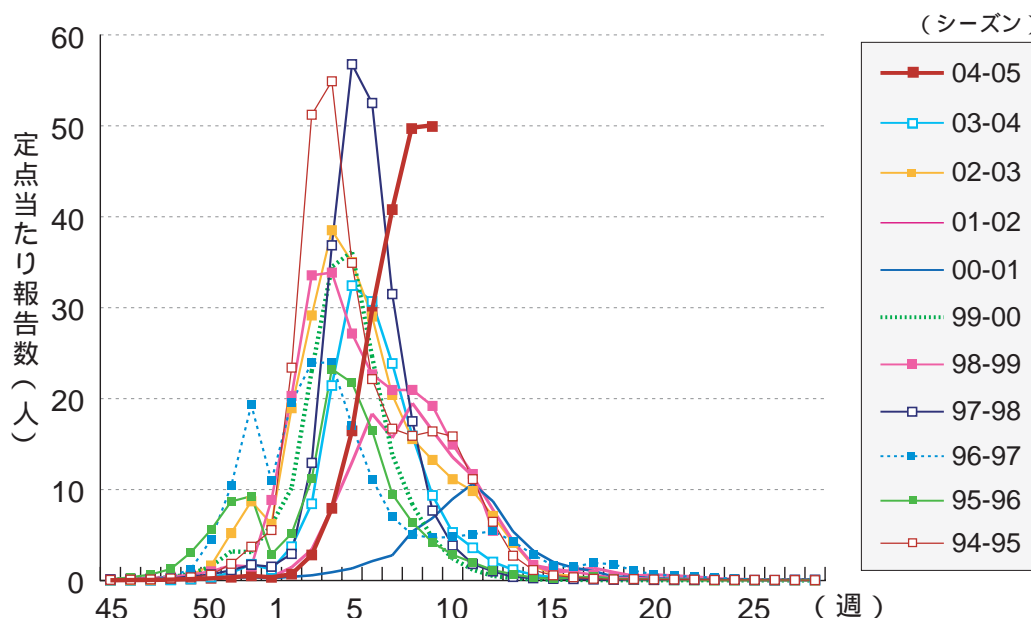


図2. 週別・都道府県別インフルエンザ発生状況 (2005年第9週)

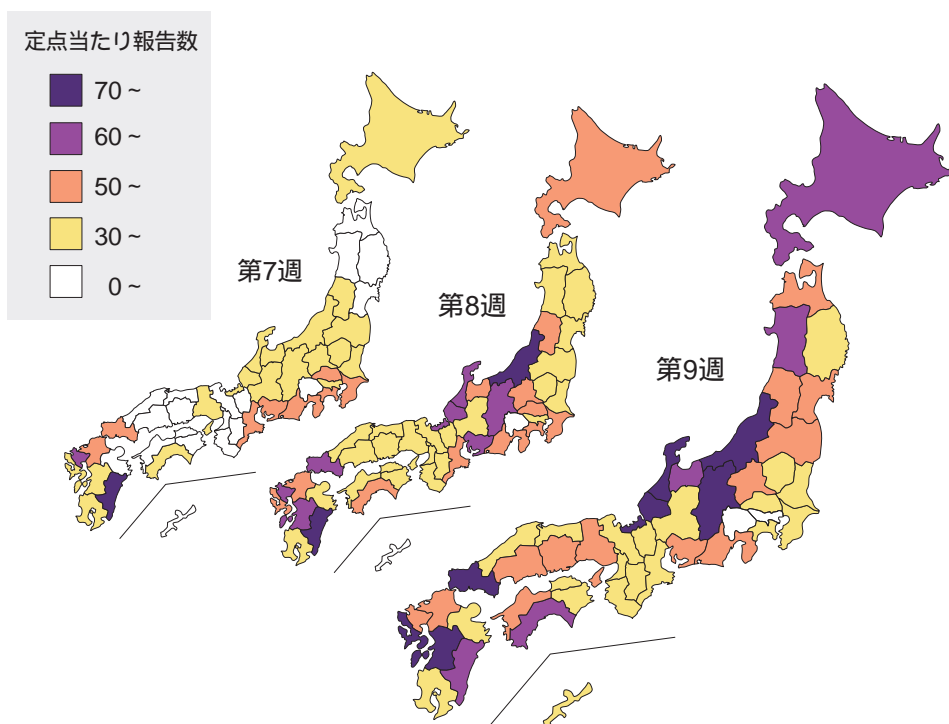


図3. インフルエンザ定点当たり報告数の都道府県別増減 (2005年第9週)

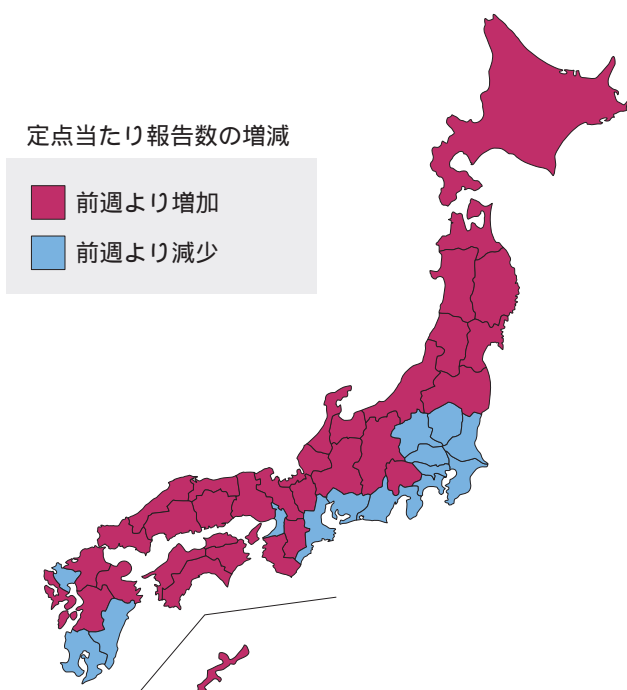
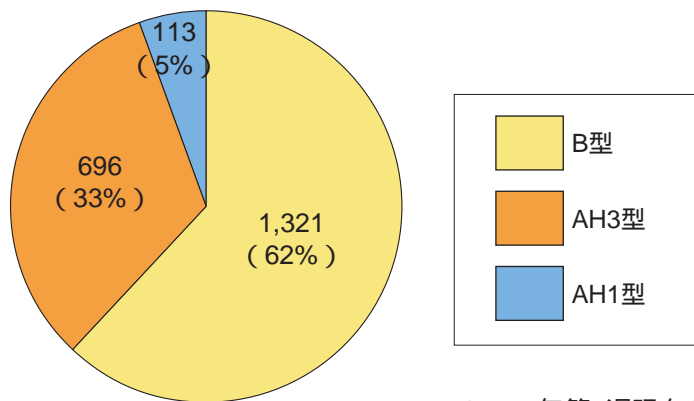


図4. 分離されたインフルエンザウイルスの型/亜型の比率(2004/05シーズン)





病原体情報

* グラフはIASRホームページ(<http://idsc.nih.go.jp/iasr/index-j.html>)からの引用です。

各都道府県市の地方衛生研究所(地研)からの検出報告です。週別の報告数は、病原体が分離・検出された検体の採取日による週ごとの報告数です。地域別の報告数は、その地域に所在する地研からの総報告数を都道府県別に示しています。

(2005年3月11日現在報告分)

インフルエンザウイルス 2004/05シーズン

今シーズンはB型1,334件(うち13件はPCRのみによる検出)、AH3型707件(うち11件はPCRのみによる検出)、AH1型113件の分離・検出が報告されている。

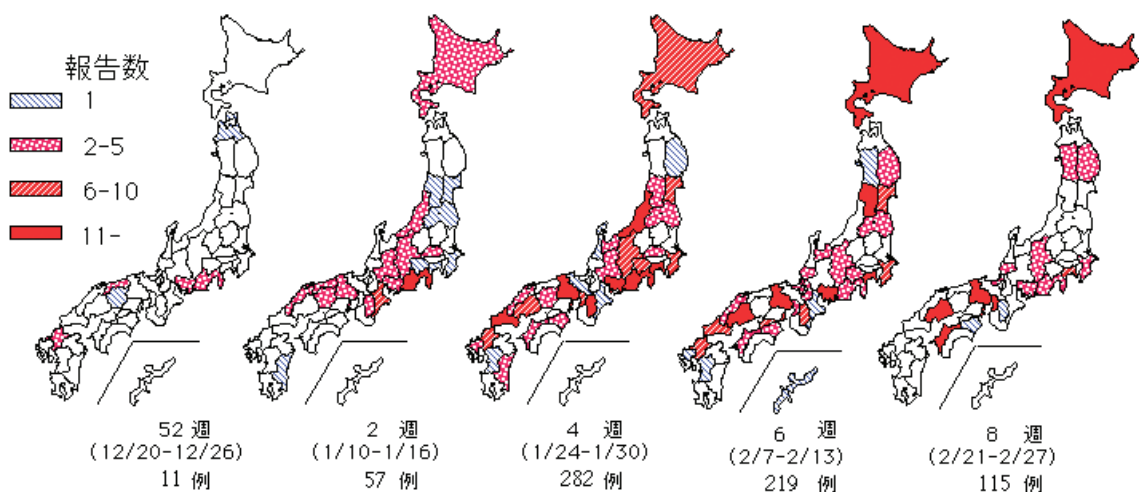
今シーズンの主流となっているB型は、新たに福井県(第6週)から分離が報告され、これまでに40都道府県から報告されている。第4～9週までの週別報告数は282、255、219、164、115、27である。年末から第2週にかけて愛知県、静岡県、三重県など東海地方を中心に分離報告が増加し始め、以後近畿、中国、関東、東北地方へと流行が拡大していった。第6週以降では、北海道99、広島県80、兵庫県51、神奈川県36、大阪府30、愛媛県27などからの報告が多い。

AH3型の第4～9週までの週別報告数は132、161、101、60、37、19である。新たに佐賀県(第3週)、広島県(第6週)から分離・検出が報告され、これまでに39都道府県から報告されている。このうちN型別された48件はすべてN2であった(神奈川県27、埼玉県13、広島県8)。第6週以降では、北海道54、兵庫県19、大阪府19、愛媛県13、千葉県13などからの報告が多い。

AH1型の第4～9週までの週別報告数は17、7、0、1、1、1である。これまでに宮城県56、岡山県19、岩手県8、福島県8、福井県8など13都道府県から分離が報告されている。このうちN型別された2件はともにN1であった(埼玉県、広島県各1)。第6週以降では、北海道2(第8、9週)、福井県1(第7週)から報告されている。

都道府県別インフルエンザウイルスB型分離・検出報告状況、2004/05シーズン

(病原微生物検出情報: 2005年3月11日現在報告数)



各都道府県市の地方衛生研究所からの分離報告を図に示した。



Infectious Agents Surveillance Report

冬季の感染性胃腸炎関連ウイルス 2004/05シーズン

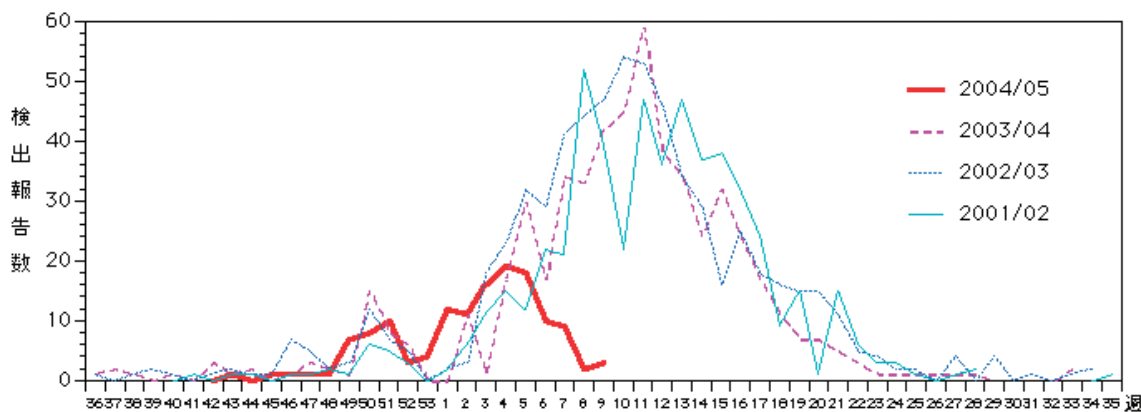
今シーズンのロタウイルスは、これまでに138件の検出が報告されており、内訳はA群136件、C群2件である。例年年明け以降に増加し始め、第10週前後にピークを示しており、今シーズンも第1週から増加がみられている。第4～9週までの週別報告数は19、18、10、9、2、3である。A群は宮城県30、大阪府21、岩手県18、徳島県16、愛媛県13など20府県から報告されている。奈良県で検出されたA群2件の血清型はG1とG3であった。A群検出例の年齢は、1歳45件、0歳26件、2歳21件の順に多く、全体の4分の3は3歳以下の乳幼児である。C群の2件は、第53週に岡山県の福祉・養護施設内で起きた集団発生事例で、いずれも成人からの検出である。

ノロウイルスは1,164件、サポウイルスは37件、電顕による検出(SRSV)は7件報告されている。今シーズンは、年明け以降に起きた集団発生事例からのノロウイルス検出報告の増加に伴ない、第2週に265件が報告されピークとなった。ノロウイルスの検出報告のうち、約8割はgenogroup(G)IIで899件、GIは90件、G不明が175件報告されている。

ノロウイルス検出例の年齢は、1歳197件、0歳95件、2歳78件の順に多く、6歳以下の小児からの検出が579件(54%)と過半数を占める。また、食中毒や施設内集団発生事例からの検出報告の増加に伴ない、20歳以上の成人からの検出が357件(33%)報告されており、うち65歳以上の高齢者から139件(13%)が報告されている。一方、サポウイルス検出例はほとんど(31/37)が6歳以下からの検出であるが、第8週に千葉県施設内で起きた集団発生事例で成人から5件の検出が報告されている。

週別ロタウイルスの検出報告数、過去3シーズンとの比較(2001/02～2004/05)

(病原微生物検出情報：2005年3月11日現在報告数)



各都道府県市の地方衛生研究所からの検出報告を圖に示した。





パラチフス 2004年(2005年2月16日時点)

パラチフスはパラチフスA菌(*Salmonella Paratyphi A*)の感染によって起こる全身性疾患である。パラチフスA菌の感染はヒトに限って起こるので、患者および無症状病原体保有者の糞便と尿、およびそれらに汚染された食品、水、手指が感染源となる。チフス菌(*Salmonella Typhi*)による腸チフスとほとんど同様な症状を示すものの、従来、腸チフスに比べて軽症であると言われてきたが、ほとんど同程度であるとする報告もある。通常は1～3週間の潜伏期の後、39～40の発熱が出現し、徐脈(高熱のわりに脈拍数が少ない)、バラ疹、脾腫が3大徴候とされている。便秘、ときには下痢がみられることもある。合併症として腸出血、腸穿孔があるが、ニューキノロン薬が使用されるようになってからは稀である。最近、腸チフス菌、パラチフスA菌の両者ともに、ニューキノロン低感受性菌の急増が問題になっているので、治療の際には注意が必要である。

パラチフスは、感染症法(1999年4月1日施行)に基づく二類感染症として、疑似症患者、無症状病原体保有者を含む症例の届け出が、診断した全ての医師に義務づけられている。過去の年間累積報告数は、1999年(4月～)30例、2000年20例、2001年22例、2002年35例、2003年44例であり、2004年の報告数(診断週が2004年第1～53週のもので、2005年2月16日までに報告されたもの)は86例であった。腸チフスがほぼ同数で推移しているのに比し、パラチフスは2001年以降増加傾向が認められ、2004年の報告数は2003年のほぼ2倍を示して腸チフスの報告数を上回った(図1)。86例のうち、疑似症が1例で、無症状病原体保有者は2例であった。

疑似症を除く85例では男性64例、女性21例で、年齢は5～62歳(中央値28歳)であった。推定感染地域は国内3例、国外81例、不明2例であった。死亡例の記載はなかった。病原診断は細菌培養により行われているが、検体の種類をみると、有症状者(83例)では血液および便5例、血液のみ65例、便のみ14例、記載なし1例で、無症状病原体保有者(2例)ではともに便であった。

国内を推定感染地域とする3例はすべて男性で、10代1例、40代2例であった(図2)。発症月はすべて5月であったが(図3)、3例に疫学的関連性は認められていない。1例は検査室における患者検体からの感染によるもので、他の2例の感染源は特定されていない。

国外を推定感染地域とする81例(男性61例、女性20例)について年齢群別にみると、10歳未満1例、10代2例、20代45例、30代20例、40代5例、50代5例、60代3例で(中央値27歳)、20代男性が特に多く、次いで30代男性、20代女性が多かった(図2)。発症日の記載のある75例について発症月をみると、9月(13例)、5月(11例)、8月(11例)に多く、長期休暇の影響と考えられた(図3)。また、推定感染国別にみると複数回答あり、記載国名数93、インド38例が特に多く、次いでネパール17例、インドネシア12例で、その他では中国6例、タイ5例、カンボジア4例、ミャンマー3例、パキスタン2例、バングラデシュ2例、モルディブ1例、トルコ1例、不明2例であった(図4)。

予防の基本は感染経路の遮断であり、特に手洗いの励行が重要である。流行地へ渡航する場合には、生水、氷、生の魚貝類、生野菜、カットフルーツなどを避けることが肝要である。また、無理な旅行日程などによって体調をくずし、抵抗力を落とさないよう心がけることも大切である。

図1. 腸チフス、パラチフス患者報告数の年次推移

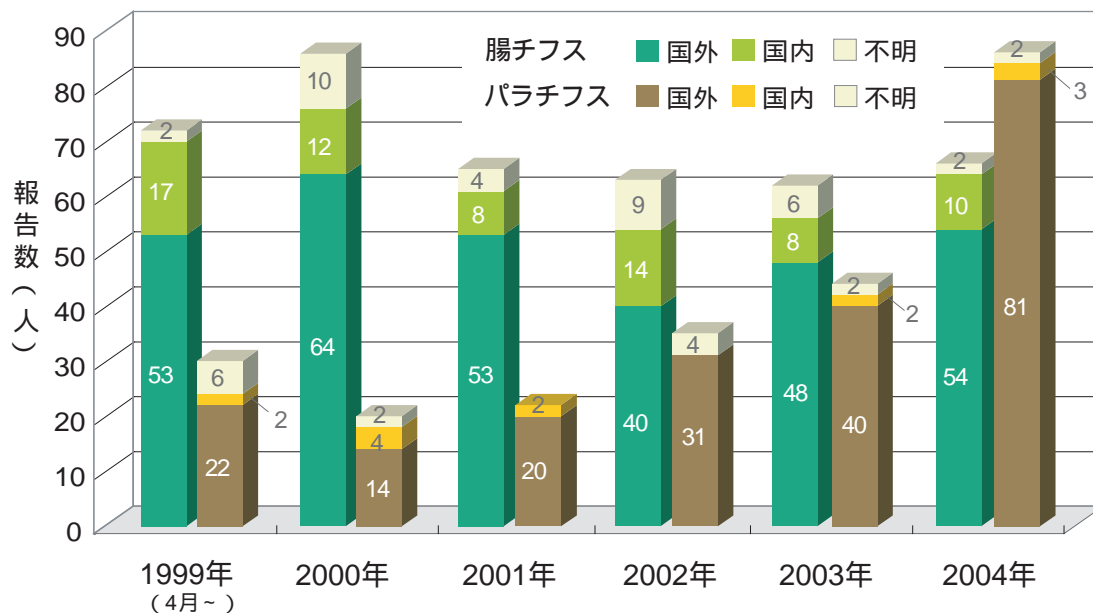


図2. パラチフス患者の性別・年齢群別報告数(2004年)

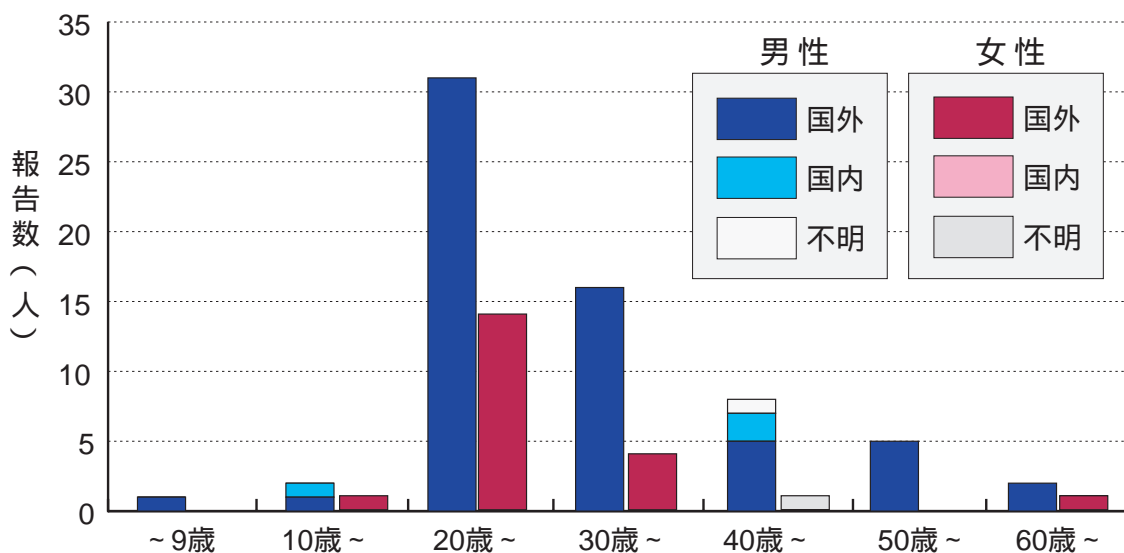


図3. パラチフス患者の発症月別報告数(2004年)

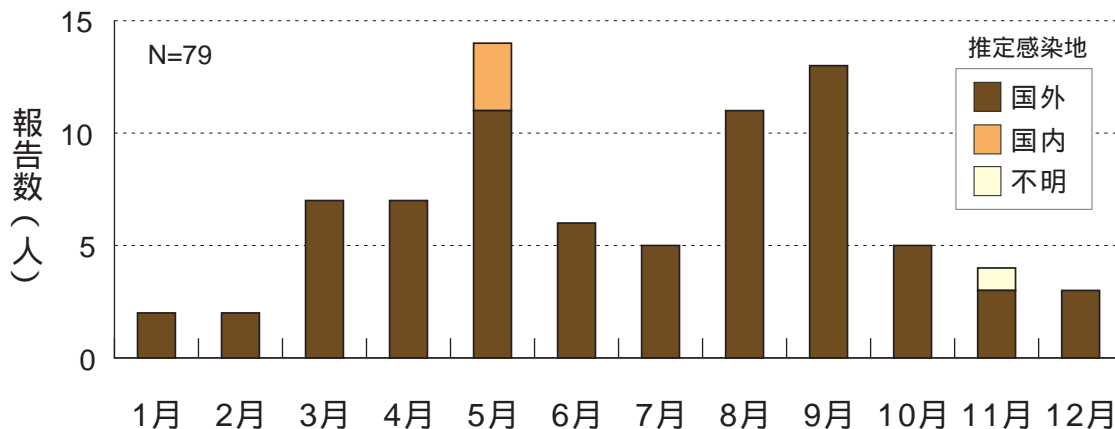
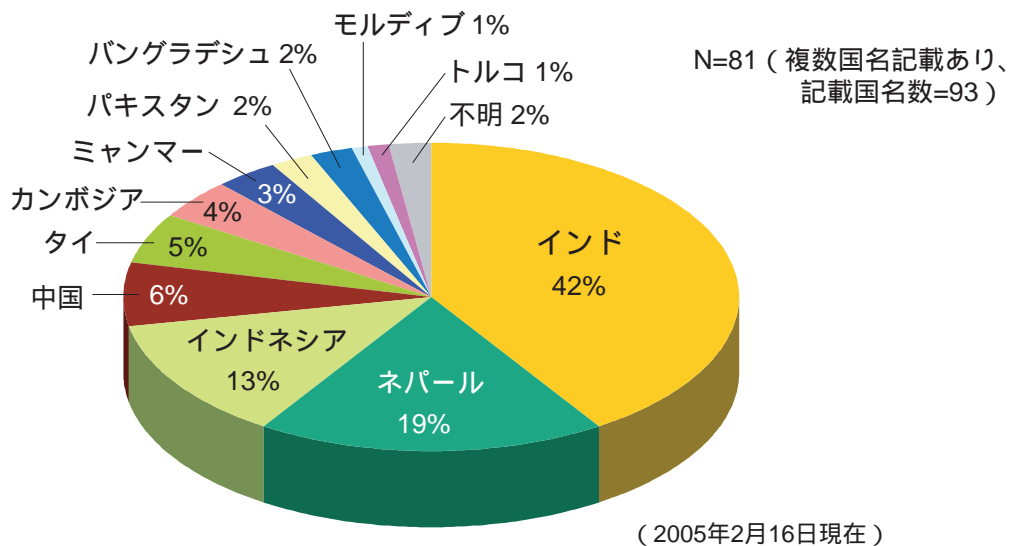


図4. パラチフス国外感染例の推定感染国(2004年)



ノロウイルスによる食中毒事例、2004年 - 大阪府

大阪府における2004(平成16)年の食中毒事件総数は81件で、患者数1,815名であった。このうち、ノロウイルスを原因とした事件は15件、患者数754名にのぼり、サルモネラやカンピロバクターを抜いて病因物質別患者数のトップとなり、過去のノロウイルスを原因とする事件と比較しても、患者数が増加していたことが分かる。そのなかで、12月に他県にまたがり発生した食中毒事件について報告する。

2004年12月5日、奈良市にあるH事務所において嘔吐、下痢症状を呈する社員が複数発生し、共通食の昼食弁当が疑われた。弁当を調製、販売していたのは大阪府内にある弁当調製施設で、日産約8,000食が生産されていた。これを受けて喫食調査を実施したところ、12月3日の弁当が原因であることが推定された。3日の昼食は大阪府、奈良県、兵庫県の3府県にある221事務所に、約4,300食流通していたが、下痢、嘔吐の食中毒症状を呈したのは大阪府7事務所、奈良県1事務所の計8事務所に販売した162食を食べた91人だけであった。大阪府立公衆衛生研究所において有症者23名の検査を実施したところ、21名からノロウイルスGIを検出した。この8事務所に配食された昼食弁当は、12月3日午前3:30～4:30にかけて同じレーン(レーン1)で盛付けされたものであることがわかった。したがって、食材の一次汚染ではなく、この時間帯の作業レーンに限局された二次汚染による食中毒事件と判定した。調理従事者71名中、汚染推定時間帯に従事していた従業員のうち16名の検便を12月8日(3名)、13日(13名)に行ったところ、6名からノロウイルスGIが検出された(8日分1名、13日分5名)。汚染推定時刻にレーン1で盛付け作業を行っていたのはそのうちの2名で、4名は加熱調理を行い、調理品は別レーンでも使用されていた。しかしながら、盛付けを行っていた2名の検便は13日に実施した結果であり、3日の状況は不明である。キャプシッド領域220bpの塩基配列の解析の結果、発症者から検出されたウイルスと同一タイプで、GI/12 SaitamaKu19aGI/01/JP type(98～99%の相同性)であった。また、2004年にGI/12 typeが検出された事例は本発生のみであった。

大阪、奈良の2県にまたがる広域食中毒事件が、調理人による特定の食品汚染によって発生したことは推定されるが、従業員の勤務時間(5時間)を考えると、非常に限局された時間帯に製造された弁当のみが食中毒を引き起したことは、ノロウイルスの汚染量、汚染の機会など、ノロウイルスによる食中毒の予防や疫学調査がいかに複雑で困難であるかを物語っている。また、この弁当調製施設において6名のノロウイルス陽性者がみつかったことは、従業員間でノロウイルスの感染が流行していたとも考えられ、さらに大きな食中毒事件を起こした危険性がある。ノロウイルス流行期には、盛付けなど熱加工以降の作業に従事する調理従事者の健康管理と、事業所内の衛生管理が重要であることを示した事例であった。

謝辞：今回の食中毒事件の調査にあたり、奈良市における発症状況、検査結果を提供いただいた、奈良市保健所微生物検査係の皆様には深謝いたします。

大阪府立公衆衛生研究所・感染症部

左近直美 依田知子 神吉政史 山崎謙治 大竹 徹 塚本定三

守口保健所

足立和人 高橋知子 山川佳苗 堤 千津 野見山 隆

高槻市保健所保健衛生課・検査係

森 利佳 横田三友紀

(IASR2005年4月号掲載予定記事より抜粋、詳細は同号参照)



海外感染症情報

* 関連の情報やさらに詳しい情報については、FORTHホームページ(<http://www.forth.go.jp/>)をご覧ください。

コンゴ民主共和国におけるペスト

WHO/CSR 2004年3月4日

多分野の専門家調査チームが、Oriental地域Bas-Uélé地区Zobiaにおいて、死亡者16名を含む総計57名の患者(ペスト疑い例54名、可能性例3名)を報告した。この数字は、最新状況と後ろ向き調査の結果を合計したものである。敗血症性ペスト患者2名の例外を除き、報告患者全員が肺ペストである。

Kisangani地方検査室での暫定的検査結果によると、喀痰塗沫検査において、採取された18検体中10検体で陽性結果を得た。

患者接触者125名の接触歴追跡調査と、経過観察が継続されている。専門家チームはZobiaにおける患者臨床管理に関する技術支援を提供し、国境なき医師団ベルギーが2カ所の隔離センターを建設している。周辺地域で社会的動員活動が実施されている。

WHO/CSR 2004年3月9日

多分野の専門家調査チームが、Oriental地域Bas-Uélé地区Zobiaにおいて死亡者54名を含む総計114名の患者(ペスト疑い例110名、可能性例4名)を報告した。この数字は最新状況と、2004年12月15日まで遡った後ろ向き調査結果を合計したものである。

臨床検体の検査室診断が継続されている。国境なき医師団ベルギーの支援の下で、保健省が隔離センターを建設している。

患者接触者214名の接触歴追跡調査と経過観察が実施されており、周辺地域では社会的動員活動が実施されている。

ベトナム: 鳥インフルエンザ

WHO/CSR 2005年3月11日

ベトナム保健省は本日(2005年3月11日)、新たに10名の鳥インフルエンザH5N1型感染ヒト患者を確定した。本日の報告は、2005年3月に感染が検知された最近の患者数名と、1月下旬まで遡った後ろ向き届出患者数名を併せた、WHOへの公式報告である。これらの新規報告患者のうち、3名が死亡している。

この患者報告は、保健省とハノイのWHOスタッフとの協力で確立された新たな報告手順に基づいたものである。

本日の公式報告により、2004年12月中旬以降、ベトナムで検知された検査室診断確定患者総数は24名となった。うち13名が死亡している。保健省からのさらなる情報を待って、WHOは全24名の発症日、転帰、出身地を含む詳細を、表にして公表する予定である。

H5N1型ウイルスによりたらされるパンデミックのリスクを評価中であるが、時間的場所に密接に関連した患者も含め、新規患者について完璧な情報を得ることは非常に重要である。患者家族や医療従事者間で発生している集団発生を確実にタイムリーに検知するために、各新規患者の緊急現地調査は必須である。このような患者は、ウイルスのヒト集団における感染動態の変化を最初に示し、当局に対して迅速に介入する必要性を警告しうるものである。

2004年1月以降の全ヒト患者(世界各国):

2003年12月以降進行していたアジア各地の家禽における流行と関連して、2004年1月にベトナムとタイで最初のH5N1型感染ヒト患者が報告された。それ以降、ヒト患者総計69名が報告され、うち46名が死亡している。

ヒト患者は3つの時期に発生している: 2004年1月から3月の第1波(患者35名、死亡者24名)、2004年8 ~ 10月の第2波(患者9名、死亡者8名)、2004年12月以降現在まで(患者25名、死亡者14名)。今回の第3波ではベトナムに加え、カンボジアの死亡者1例も総数に含まれている。

2004年1月28日以降の鳥インフルエンザA(H5N1)型感染確定ヒト患者総数:

患者総数は69名(カンボジア1名、タイ17名、ベトナム51名)、死亡者総数は46名(カンボジア1名、タイ12名、ベトナム33名)。患者総数は死亡者を含む。WHOは、検査室診断確定患者のみを報告している。



感染症の話

発しんチフス

シラミによって媒介されるリケッチア症で、戦争、貧困、飢餓など社会的悪条件下で流行することが多く、第一次大戦中にはヨーロッパで数百万の死者を出している。その後、発生が減少したとはいえ、経済状態の悪化したロシアでは本疾患の再興が報告されており、アフリカのブルンジでも刑務所内で多数の患者が発生した。いずれも衛生状態の悪化でシラミが大量発生したことによる。わが国では発生がみられなくなって久しいが、路上生活者でコロモジラミの発生が報告されており、今後注意しなければならない疾患である。

我が国では、「チフス」の用語は腸チフス・パラチフスを意味することが多いが、英語の“typhus”は発しんチフス、その他の節足動物媒介性リケッチア症を意味する。

疫学

一般には寒冷な山岳地帯に多く、アフリカ諸国、中南米諸国、インド、パキスタン、中国、ギリシャなどにみられるが、第二次世界大戦以降の報告のほとんどは、ブルンジ、エチオピア、ルワンダなどからである。

わが国では、1914(大正3)年に7,000人を超える患者発生が記録されているが、その後次第に減少し、1942(昭和17)年までは数～数十人の患者発生数であった。ところが、太平洋戦争が激しくなった1943(昭和18)年から毎年1,000人を超える患者が発生するようになり、戦後の1946(昭和21)年には32,300人強と急増した。その後、数年間は年間100人を超える患者発生があったものの、1953(昭和28)年以降では、1957(昭和32)年の1例を除いて発生はみられていない。

病原体

病原体の発しんチフスリケッチア(*Rickettsia prowazekii*)は、細胞内でのみ増殖する細菌の一種である。病原体を保有しているのはヒトで、ベクターは、患者の血液を吸血したコロモジラミ(*Pediculus humanus corporis*) (図)である。

シラミが吸血して感染性を有するようになるのは、患者が発熱している時期および解熱後2～3日間とされている。シラミは感染後およそ2週間で死亡する。感染しているコロモジラミは糞便中にリケッチアを排泄する。シラミは通常、吸血時に排便することから、ヒトは刺し口あるいは引っかき傷などに、糞便やつぶしたシラミを擦り込むことによって感染する。また、ヒトの密集した場所では、シラミの糞便で汚染された塵埃による経気道感染もありうる。

発しんチフスの感染サイクルは本来、ヒト-シラミ-ヒトであるが、米国ではムササビの一種(*Glaucois volanis*)に本リケッチアの自然感染があり、ムササビから感染したと思われるヒト症例が報告されている。この場合、ベクターは寄生するシラミ、あるいはノミによると推定されているが、確証は得られていない。



図. コロモジラミ
(提供: 国立感染症研究所昆虫医科学部)

感染シラミは吸血後2～6日以内に糞便中にリケッチアを排泄するが、リケッチアは死亡したシラミの体内でも数週間生残するとされる。糞便内でのリケッチアは、60℃の蒸気であれば20秒で死滅するものの、室温では2週間以上、ときに300日間も感染力を有していたとの報告がある。

臨床症状

発熱、頭痛、悪寒、脱力感、悪心・嘔吐、手足の疼痛を伴って突然発病する。潜伏期間は6～15日で、通常は12日程度とされている。体温は39～40℃に急上昇する。発疹は発熱後2～5日で体幹に初発し、第5～6病日で全身に広がるが、顔面、手掌、足底に出現することは少ない。発疹は初め指圧により消退するが、数日後には指圧により消退しない暗紫色の点状出血斑となる。

重症感は非常に強いが、発熱からおよそ2週間後に急速に解熱する。重症例の半数に精神神経症状が出現する。すなわち、有熱期の第5病日頃からうわごとを発し、第2週目頃から興奮発揚して幻覚、錯覚などがみられ、狂躁状態に至ることもある。意識は第5～6病日頃から混濁し始める。循環器系では、腸チフスと異なり頻脈を示す。治療しない場合の致死率は年齢によって異なるが、10～40%である。小児、あるいは部分的な免疫がある成人の場合には、発疹がなく軽症で経過することもある。

ヒトは一度かかると通常長期間の免疫が得られるが、ときには潜伏感染の状態となり、数年後に再発することがある(Brill-Zinsser病)。この再発の原因としては、過度のストレスによる免疫機能低下、あるいは低栄養状態などが考えられている。これは軽症で致死率も低いが、新たな感染源として重要である。

他の熱性疾患との鑑別には、血清学的診断ならびに疫学的検討を加えることが必要である。軽症な発しんチフスでは、発疹熱との鑑別は困難である。腸チフス・パラチフスでは発病は一般に緩徐であり、熱型、脈拍、発疹の出現の仕方などが異なる。つつが虫病では刺し口があり、その所属リンパ節の有痛性腫脹がみられる。

病原診断

実験室診断で最も信頼性が高いのは病原体分離であるが、発しんチフスリケッチアは病原体安全度レベル3であり、P3レベルの実験室で行う必要があることから、一般には勧められない。

遺伝子増幅による診断はリケッチアの生死にかかわらず可能であり、リケッチアの感染性をなくしても検出することができる。また、シラミからの検出も行われる。しかし、高感度であるため、材料の取扱には注意が必要である。

血清診断としては、ワイル・フェリックス反応でOX19およびOX2が陽性となるが、感度および特異度は低い。Brill-Zinsser病ではワイル・フェリックス反応は通常、陰性を示す。間接蛍光抗体法は一般に特異性が高いが、発疹熱との鑑別が重要であり、相互のリケッチアによる血清の吸収試験を行う必要がある。他には、CF法やEIA法などが用いられることもある。

治療・予防

テトラサイクリン系抗菌薬による治療が主流であり、成人ではドキシサイクリン200mg/日(分2)の3～5日間投与が行われる。途上国では、クロラムフェニコール10mg/kgの1日4回、3～5日間投与も行われる。

予防のためには、基本的に衣類を清潔にし、シラミの発生を防ぐことが重要である。

感染症法における取り扱い

発しんチフスは四類感染症に定められており、診断した医師は直ちに最寄りの保健所に届け出る。報告のための基準は以下の通りになっている。

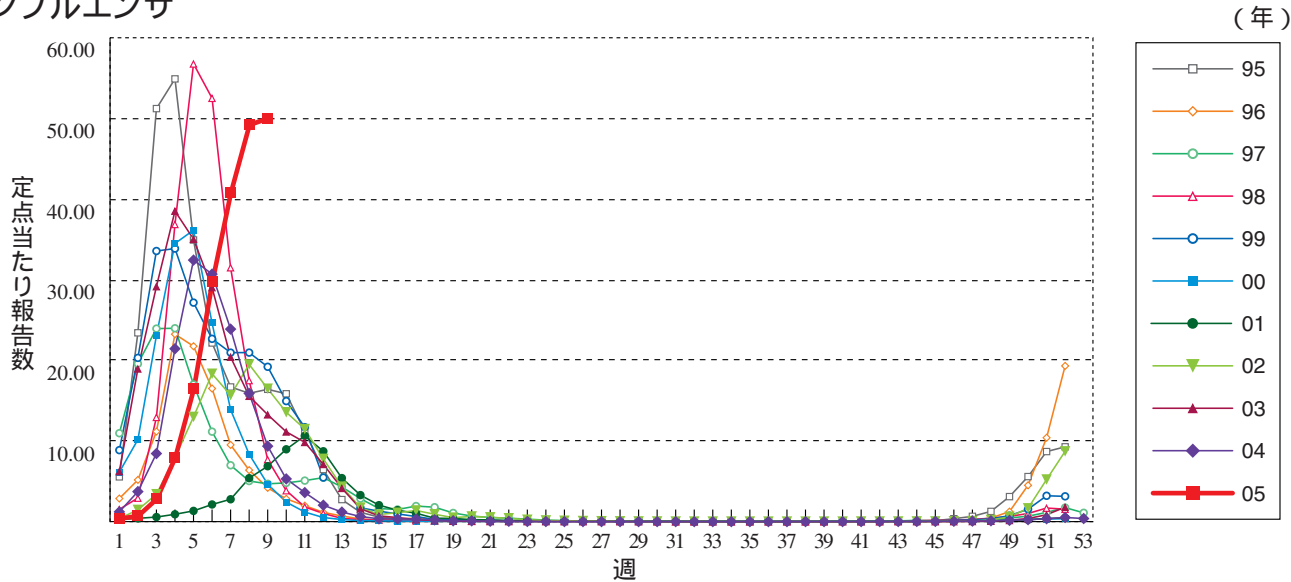
診断した医師の判断により、症状や所見から当該疾患が疑われ、かつ、以下のいずれかの方法によって病原体診断や血清学的診断がなされたもの

- ・病原体の検出
例 血液からのリケッチアの分離など
- ・病原体に対する抗体の検出
例 補体結合(CF)法、酵素抗体(EIA)法など

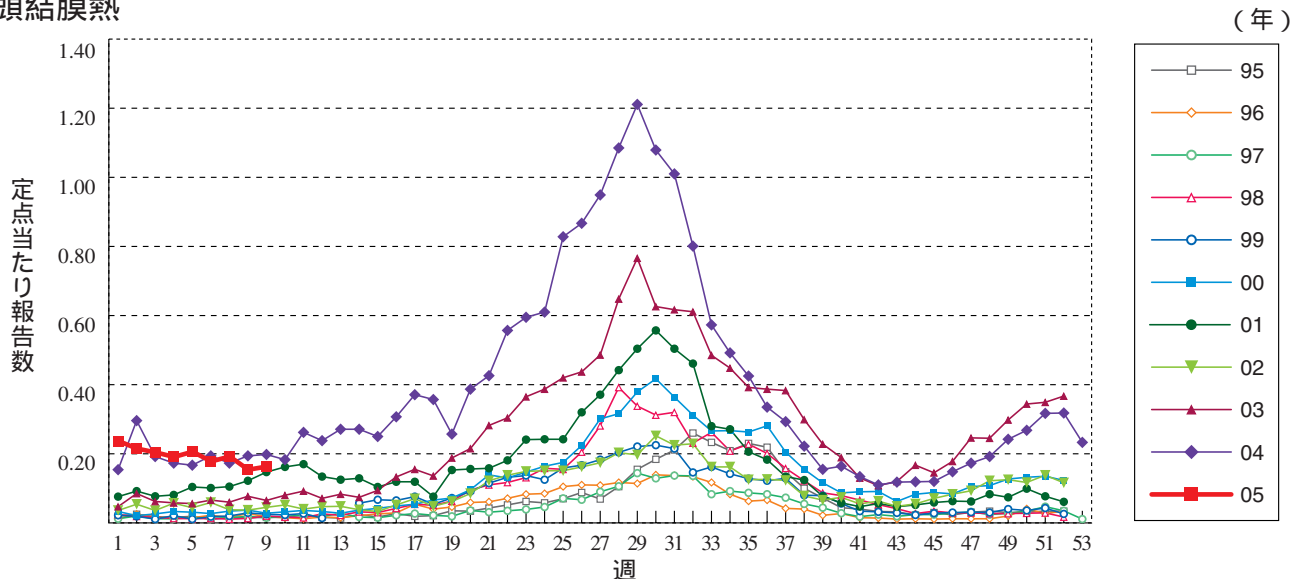
(バイオメディカルサイエンス研究会 萩原敏且
国立感染症研究所感染症情報センター 木村幹男)

グラフ総覧(9週)

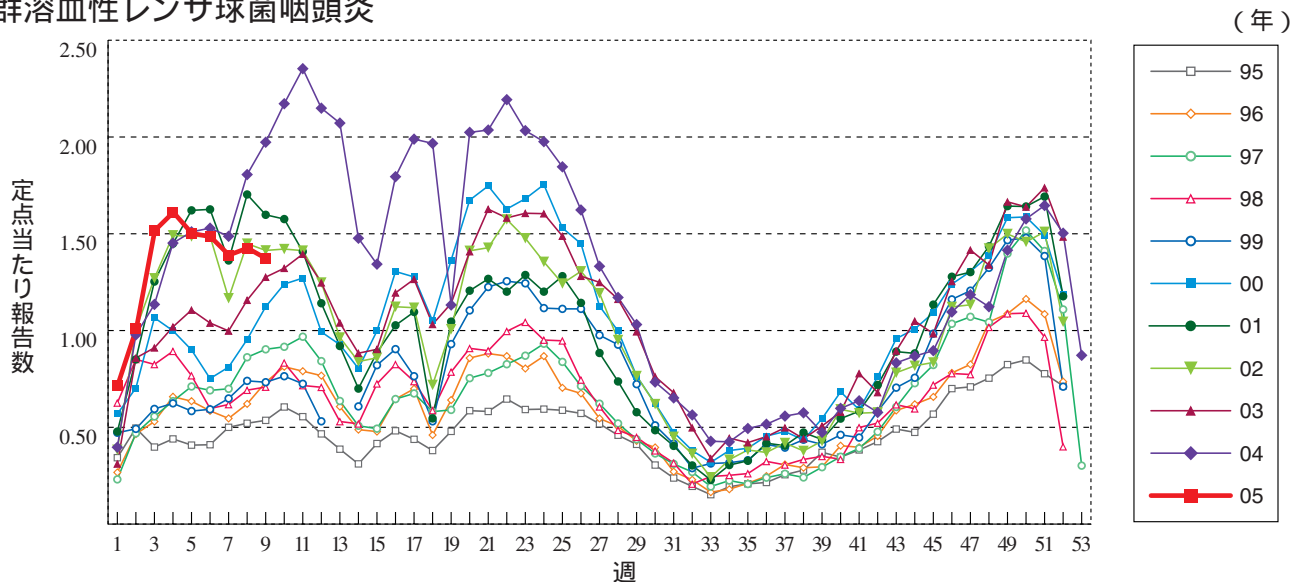
インフルエンザ



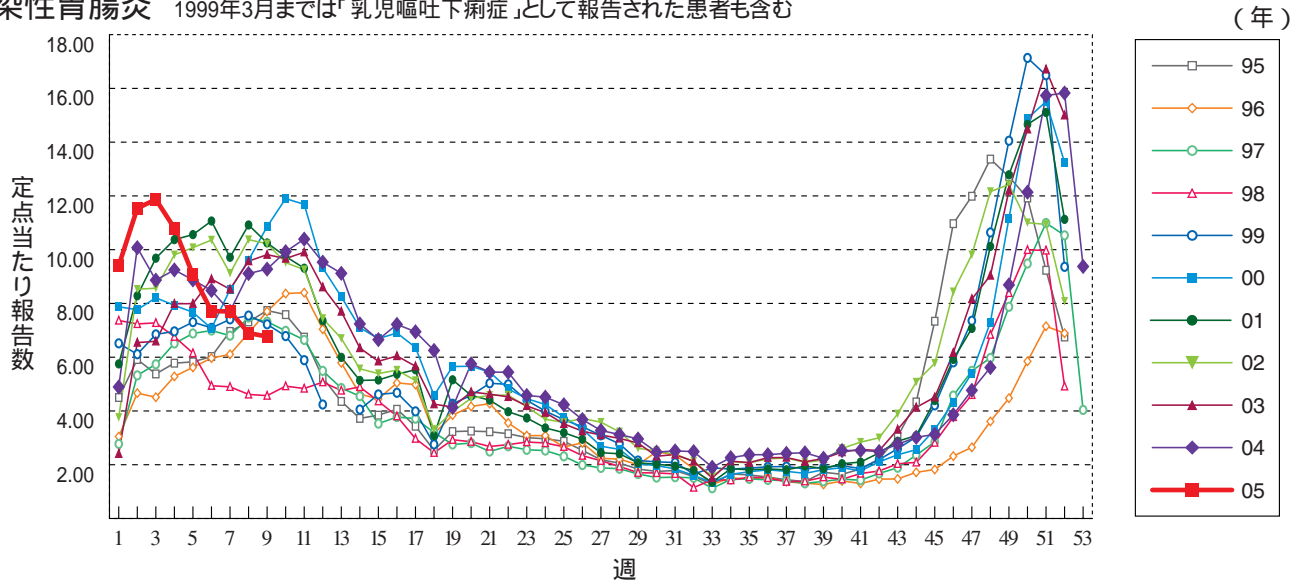
咽頭結膜熱



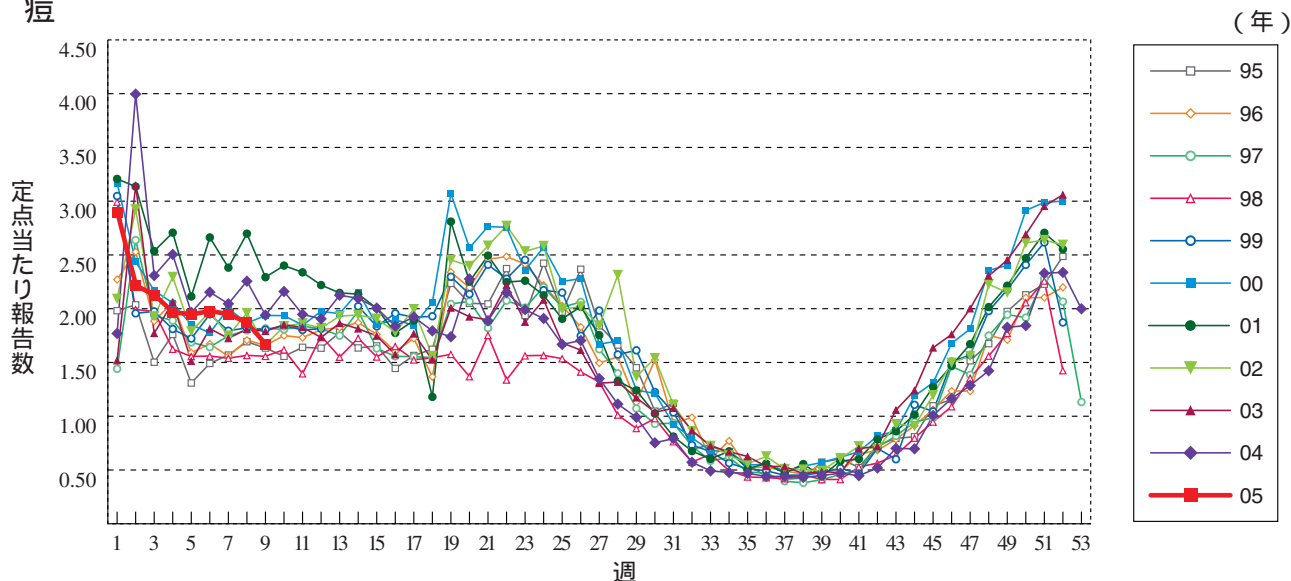
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎



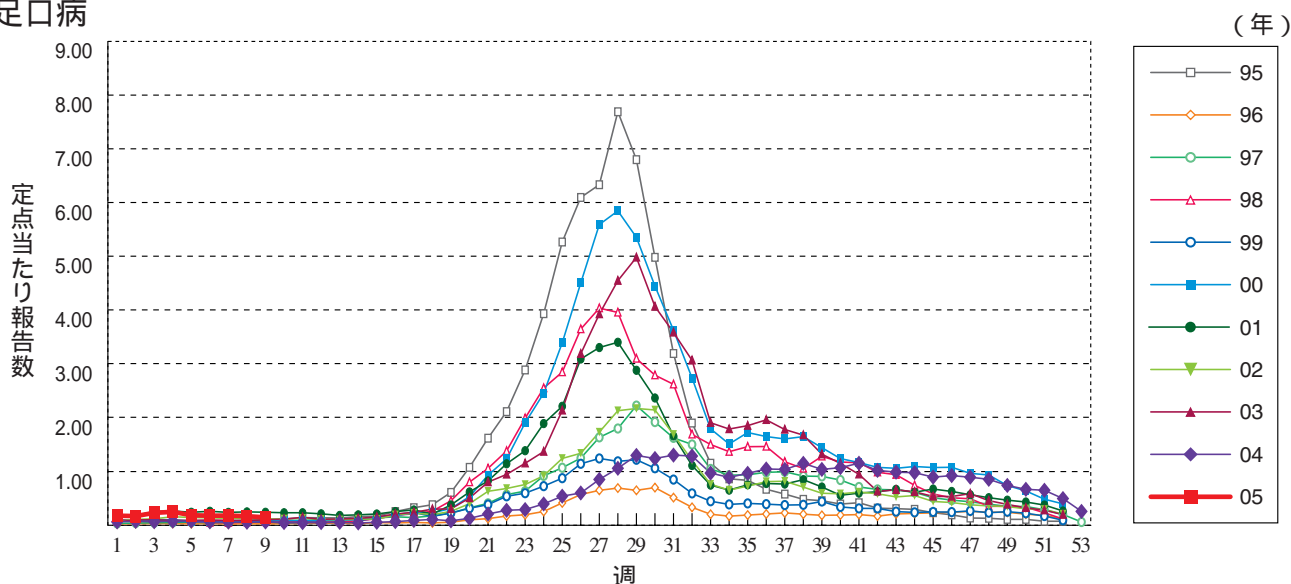
感染性胃腸炎 1999年3月までは「乳児嘔吐下痢症」として報告された患者も含む



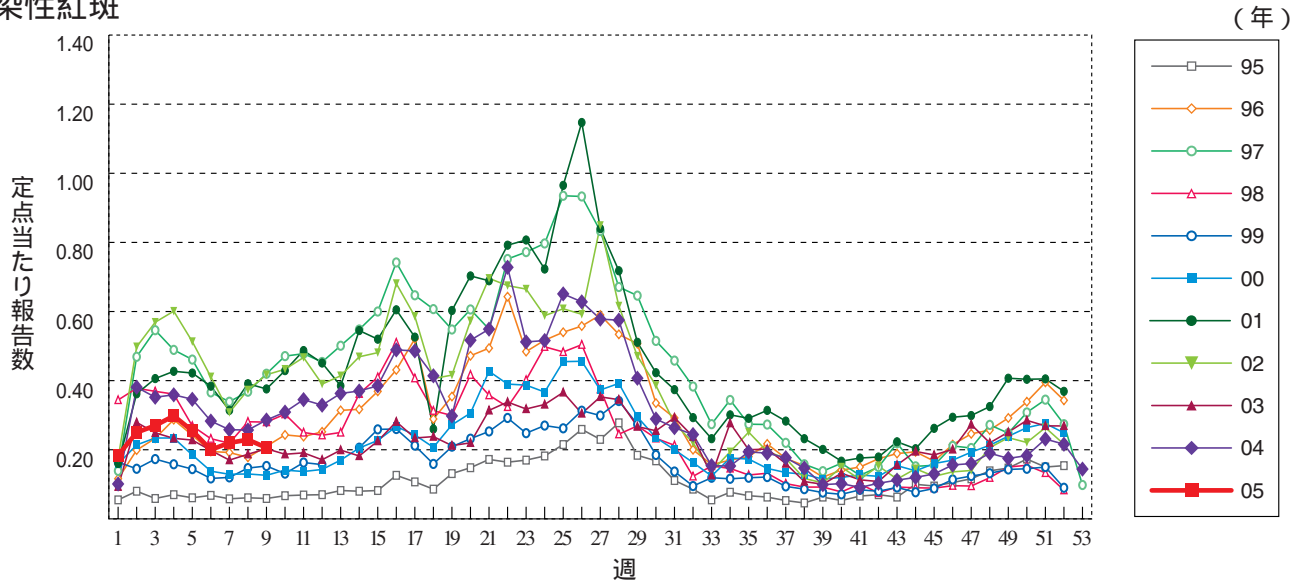
水痘



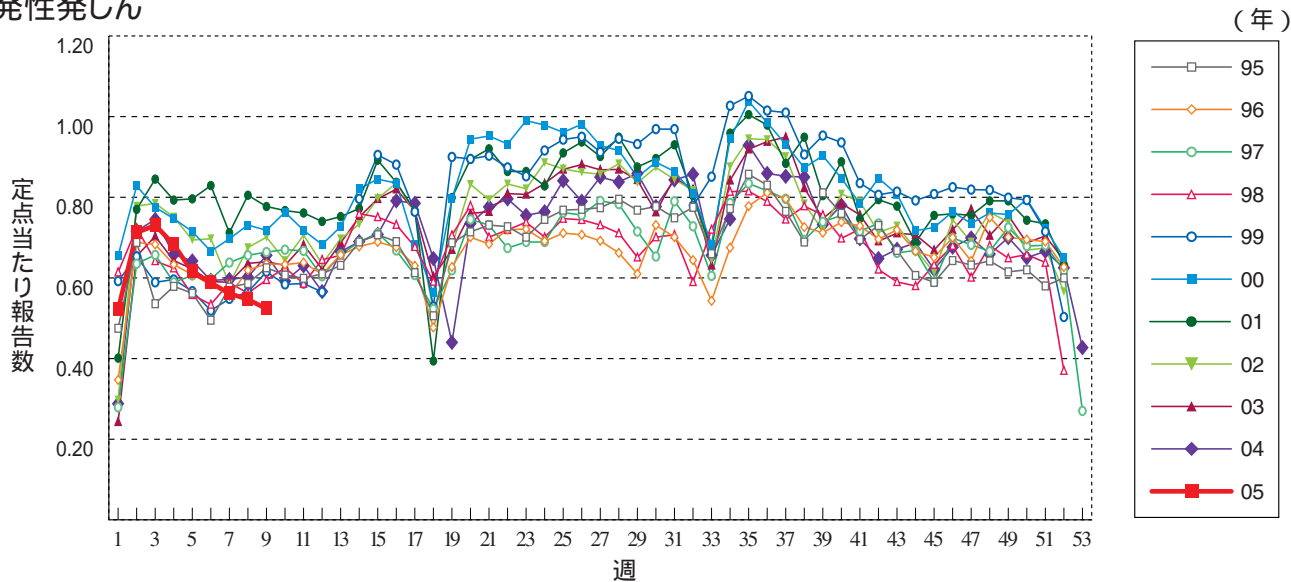
手足口病



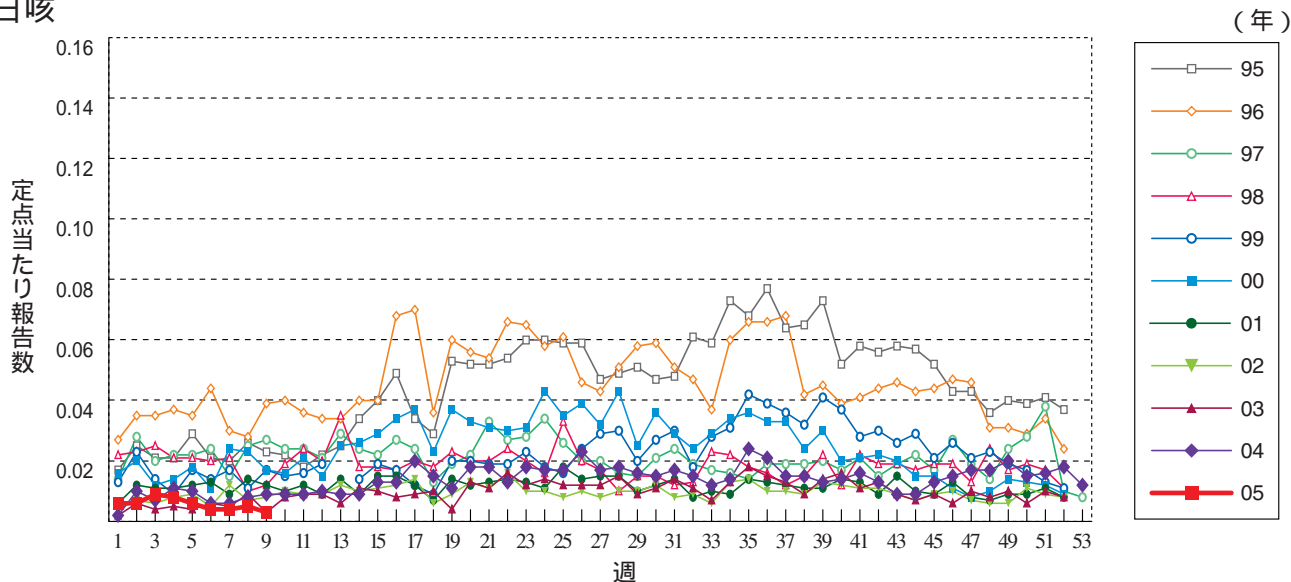
伝染性紅斑



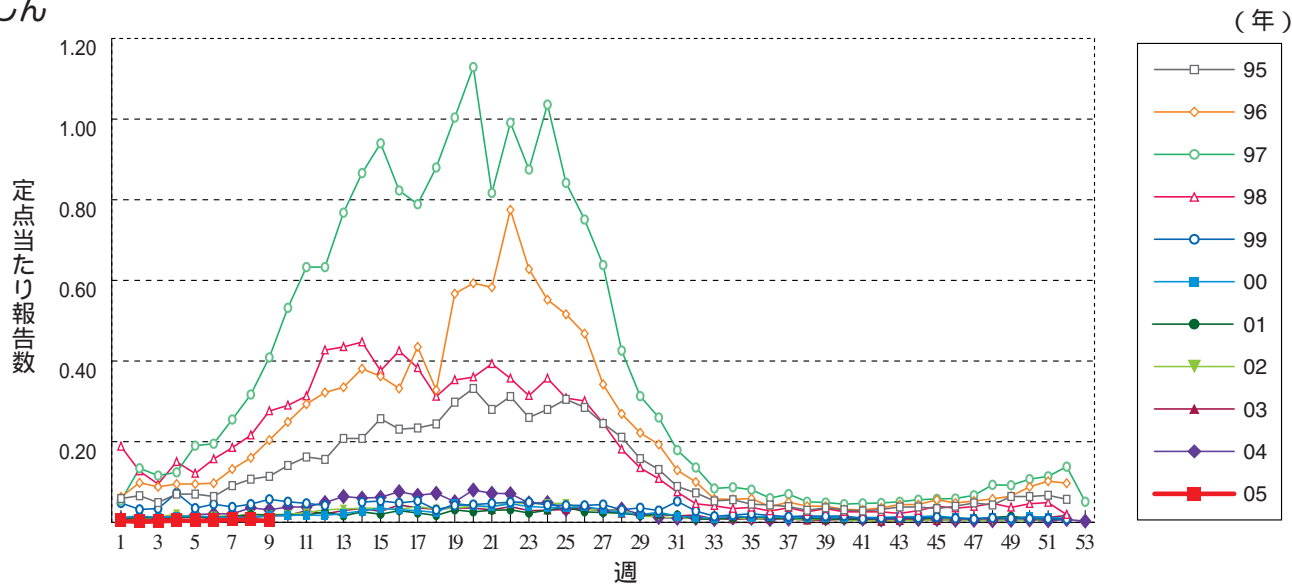
突発性発しん



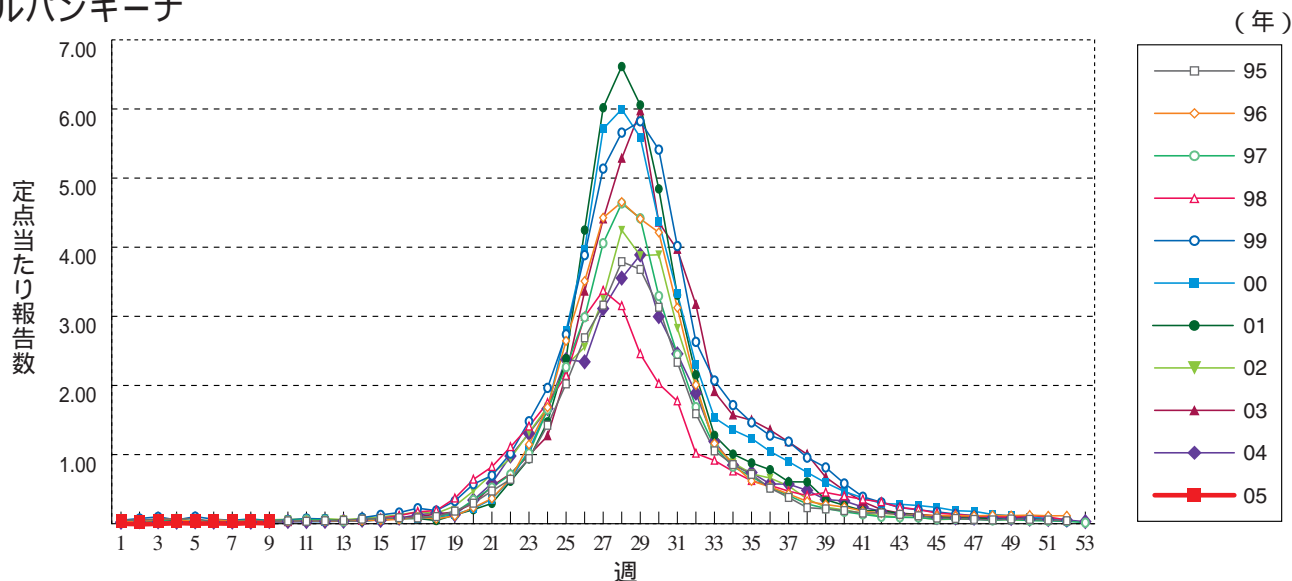
百日咳



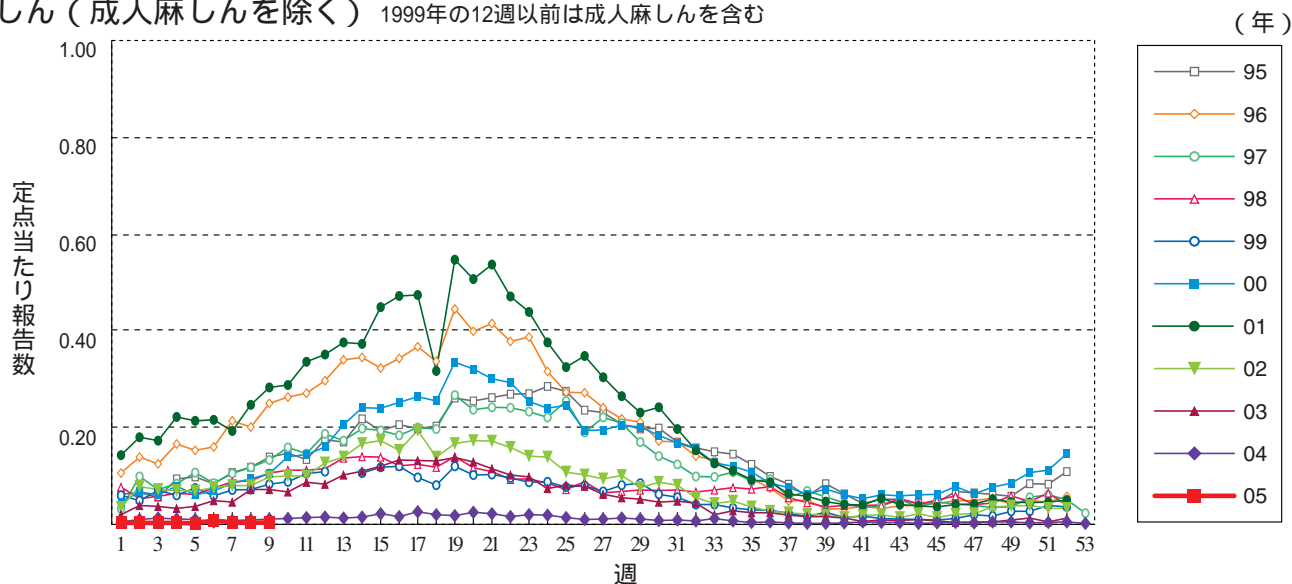
風しん



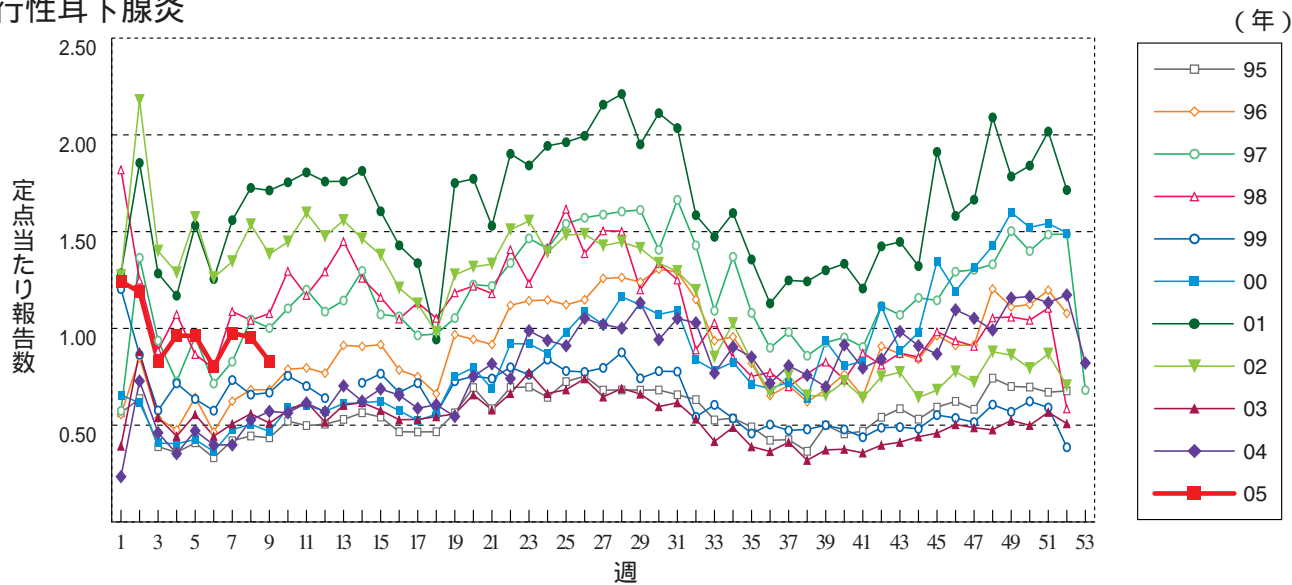
ヘルパンギーナ



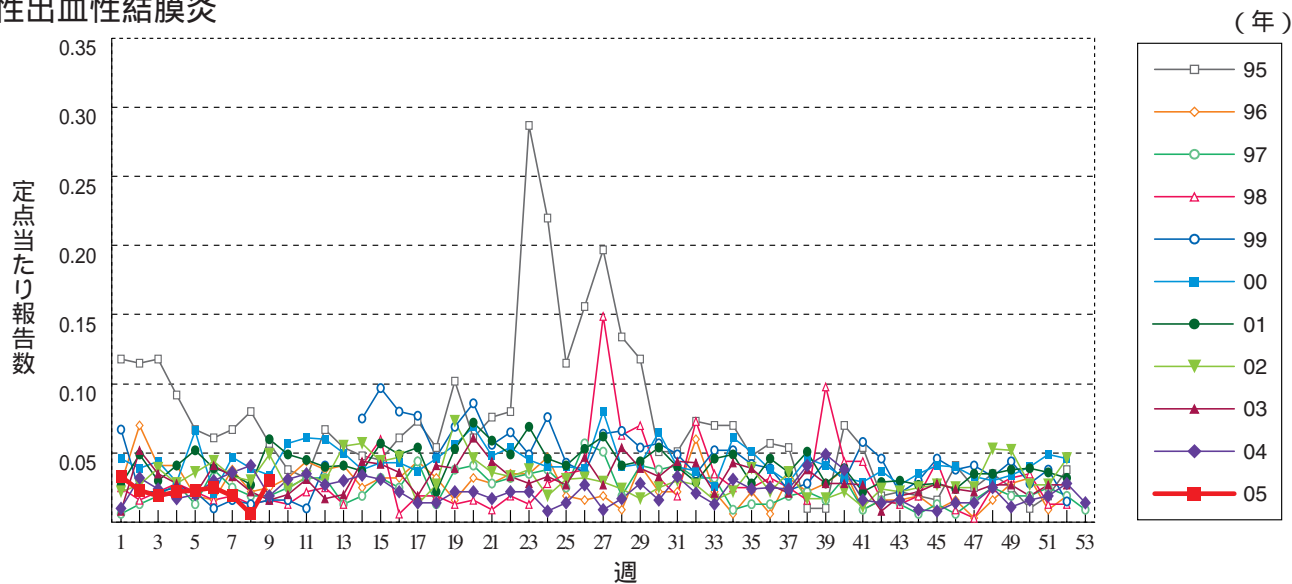
麻しん (成人麻しんを除く) 1999年の12週以前は成人麻しんを含む



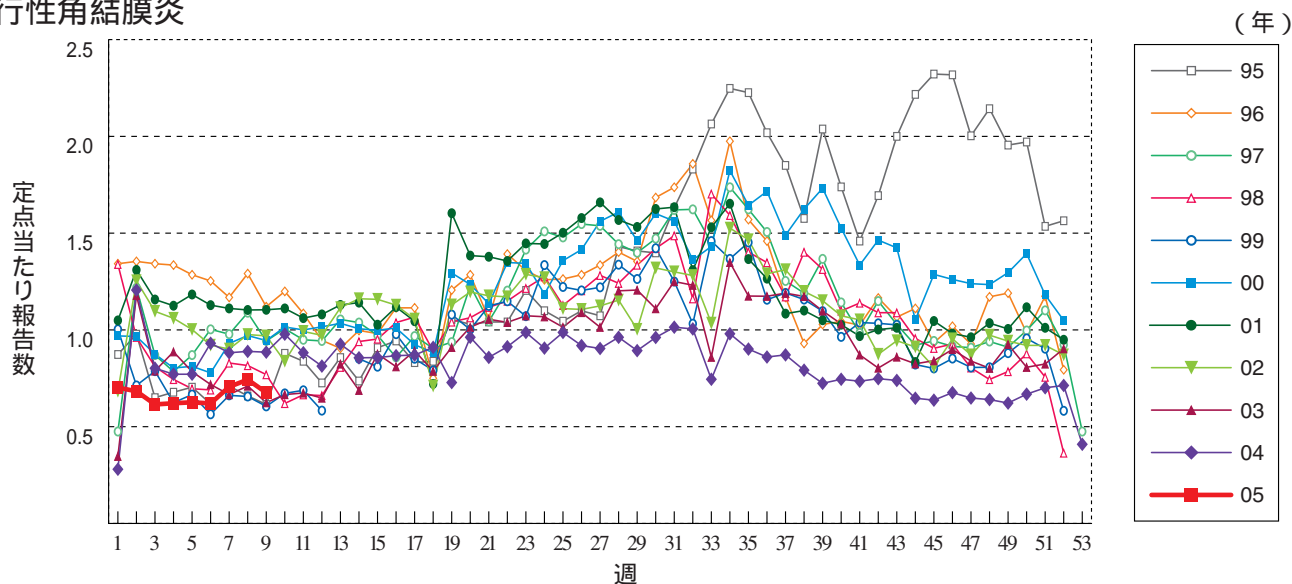
流行性耳下腺炎



急性出血性結膜炎

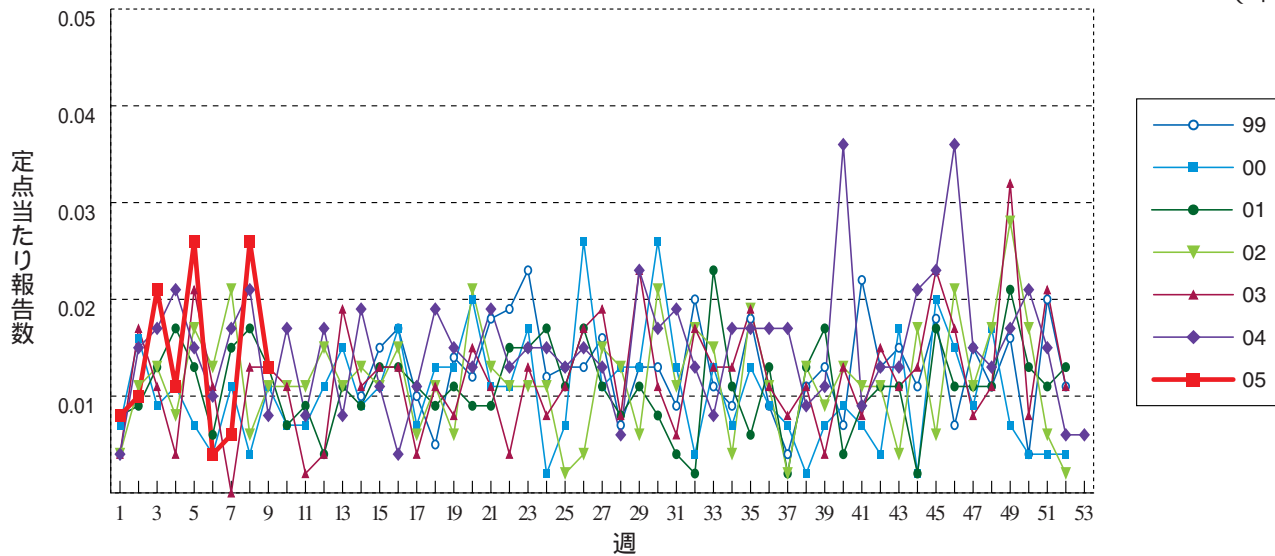


流行性角結膜炎



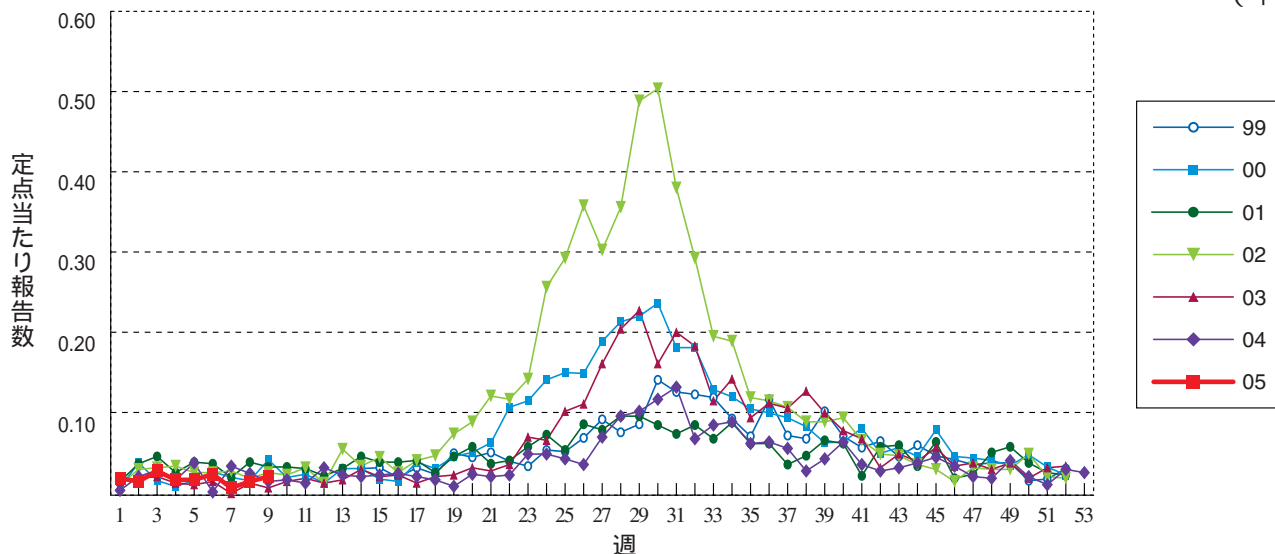
細菌性髄膜炎

(年)



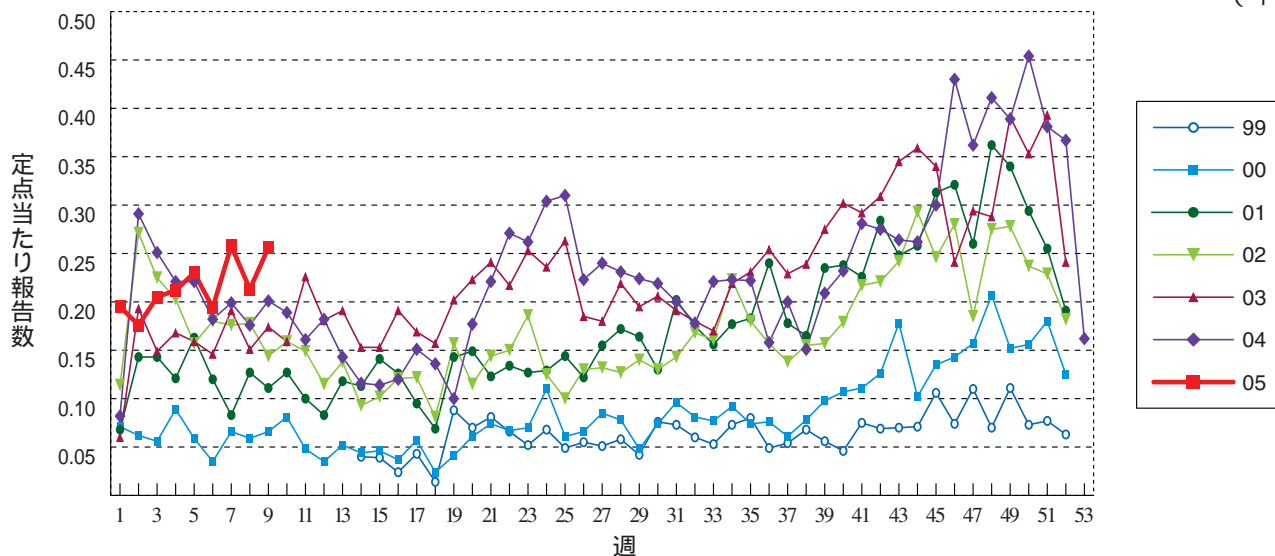
無菌性髄膜炎

(年)

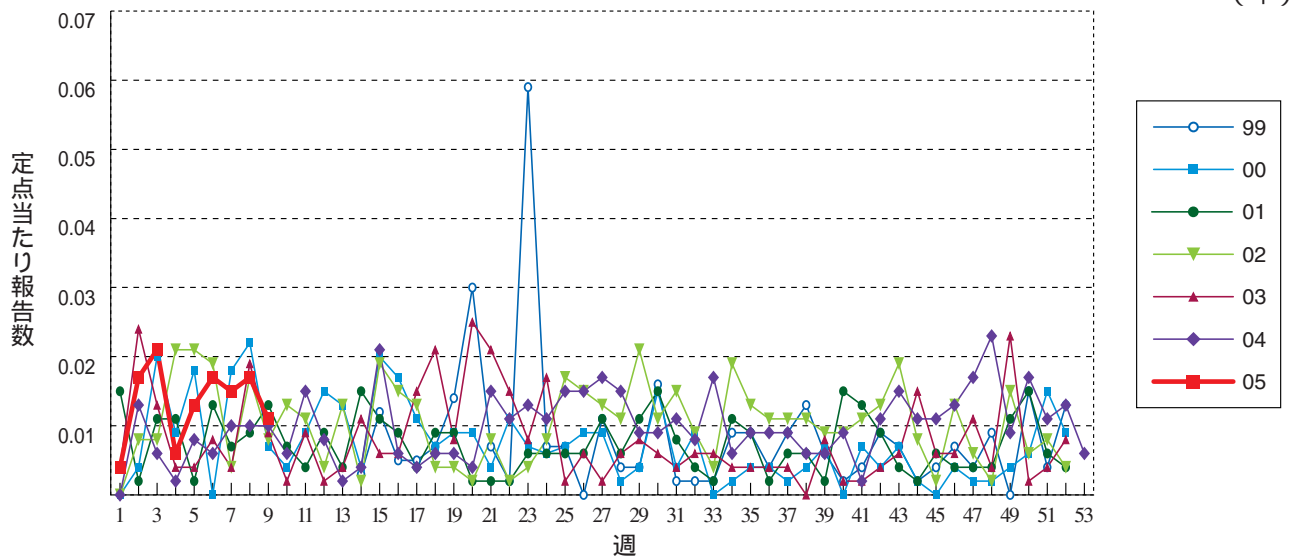


マイコプラズマ肺炎

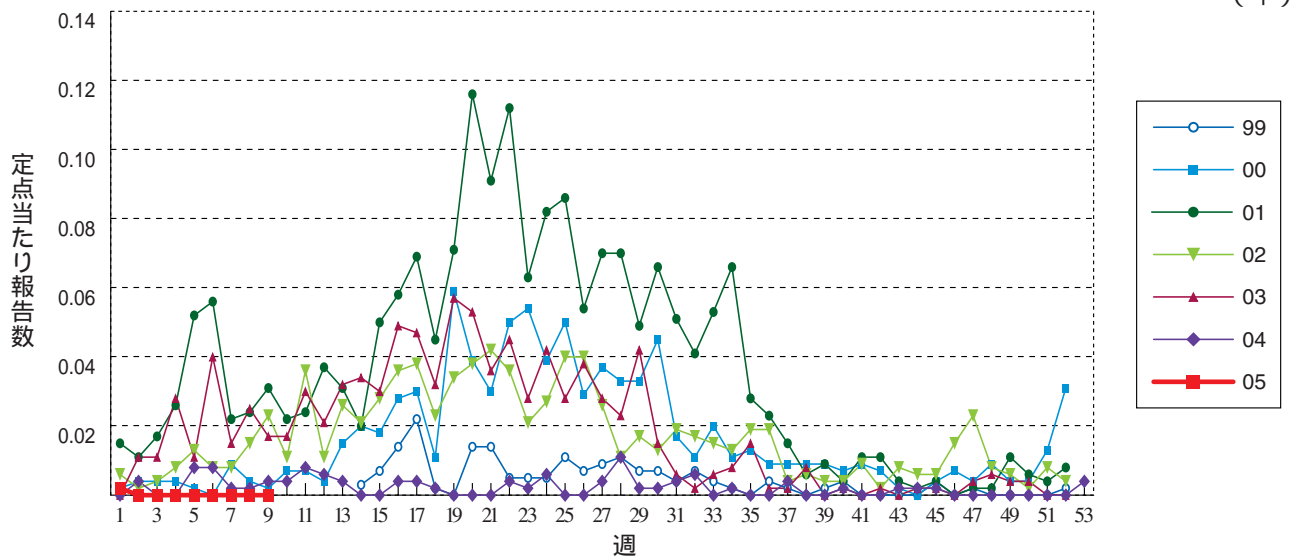
(年)



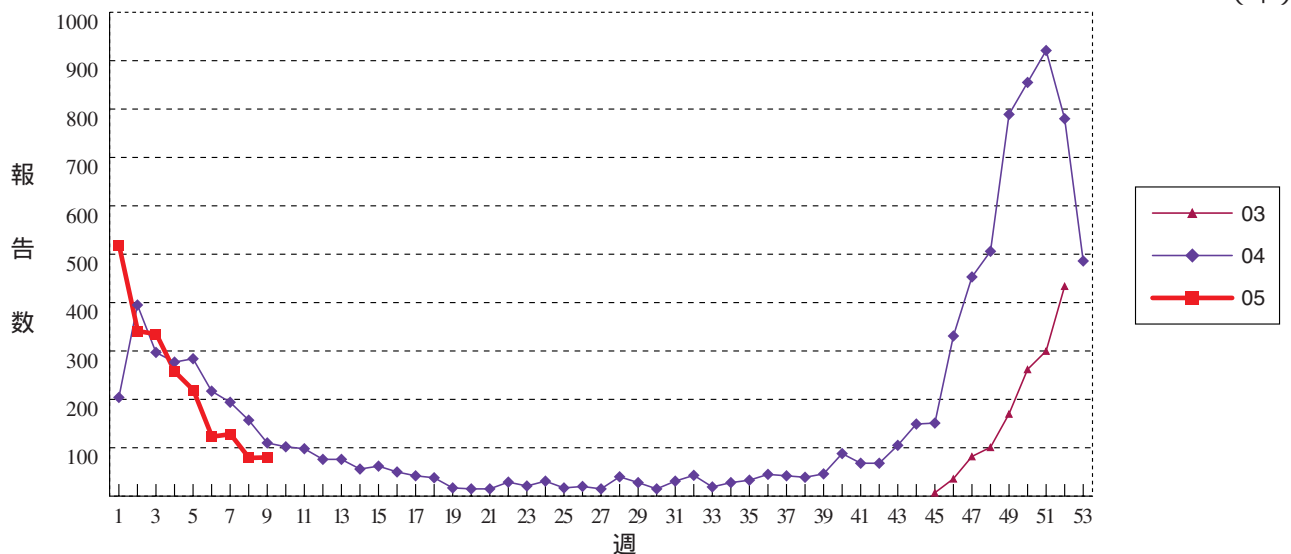
クラミジア肺炎 (オウム病を除く)



成人麻疹



RSウイルス感染症 定ポイントあたり報告数ではなく、報告数を示しています。





9週のデータ

注)表中の報告数は3月9日集計分であり、その後の報告は次週以降の累積に反映されます。
表の最後の注釈を参照して下さい。

報告数・累積報告数、疾病・都道府県別

平成17年9週

	エボラ出血熱		クリミア・コンゴ出血熱		ペスト		マールブルグ病		ラッサ熱		コレラ		細菌性赤痢		腸チフス		バラチフス		
	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	
総数	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	8	8	72	2	9	-	2	-	-
北海道	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	-	1	-	-	-
青森県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
岩手県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
宮城県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	1	-
秋田県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
山形県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
福島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	1	-	-	-	-	-	-
茨城県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
栃木県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
群馬県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
埼玉県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	6	-	1	-	-	-	-
千葉県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	3	-	-	-	-	-	-
東京都	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	17	1	2	-	1	-	-
神奈川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-
新潟県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	2	1	1	-	-	-	-
富山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
石川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
福井県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
山梨県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-
長野県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
岐阜県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
静岡県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	-	-	-	-	-	-
愛知県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	1	-	-	-	-
三重県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	1	-	-	-	-	-	-
滋賀県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-
京都府	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-
大阪府	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	2	12	-	1	-	-	-	-
兵庫県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-
奈良県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
和歌山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
鳥取県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-
島根県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
岡山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-
広島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	-	-	-	-	-	-
山口県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
徳島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
香川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
愛媛県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
高知県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
福岡県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-
佐賀県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
長崎県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
熊本県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-
大分県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
宮崎県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
鹿児島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
沖縄県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-	-	-	-	-

報告数・累積報告数, 疾病・都道府県別

平成17年9週

	急性灰白髄炎		ジフテリア		腸管出血性大腸菌感染症		アメーバ赤痢		エキノコックス症		黄熱		オウム病		回歸熱		ウイルス性肝炎	
	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積
総数	-	-	-	-	6	72	4	107	-	4	-	-	-	14	-	-	1	61
北海道	-	-	-	-	-	-	-	2	-	4	-	-	-	-	-	-	-	2
青森県	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
岩手県	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
宮城県	-	-	-	-	1	1	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
秋田県	-	-	-	-	-	3	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
山形県	-	-	-	-	-	-	1	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
福島県	-	-	-	-	-	2	-	1	-	-	-	-	-	1	-	-	-	1
茨城県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
栃木県	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
群馬県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3
埼玉県	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
千葉県	-	-	-	-	-	1	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
東京都	-	-	-	-	-	5	-	28	-	-	-	-	-	2	-	-	1	8
神奈川県	-	-	-	-	-	2	1	2	-	-	-	-	-	1	-	-	-	1
新潟県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
富山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
石川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
福井県	-	-	-	-	1	3	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
山梨県	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
長野県	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
岐阜県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
静岡県	-	-	-	-	-	1	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
愛知県	-	-	-	-	-	6	-	9	-	-	-	-	-	1	-	-	-	3
三重県	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
滋賀県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
京都府	-	-	-	-	-	2	-	4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
大阪府	-	-	-	-	-	3	1	16	-	-	-	-	-	-	-	-	-	6
兵庫県	-	-	-	-	-	3	1	3	-	-	-	-	-	6	-	-	-	4
奈良県	-	-	-	-	-	1	-	2	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-
和歌山県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3
鳥取県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
島根県	-	-	-	-	-	12	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
岡山県	-	-	-	-	-	1	-	5	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
広島県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	2	-	-	-	2
山口県	-	-	-	-	-	2	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
徳島県	-	-	-	-	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
香川県	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
愛媛県	-	-	-	-	1	2	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
高知県	-	-	-	-	2	2	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
福岡県	-	-	-	-	1	8	-	4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3
佐賀県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
長崎県	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
熊本県	-	-	-	-	-	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
大分県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
宮崎県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	14
鹿児島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
沖縄県	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

報告数・累積報告数, 疾病・都道府県別

平成17年9週

	Q 熱		狂 犬 病		クリプトスボルジウム症		クロイツフェルト・ヤコブ病		劇症型溶血性レンサ球菌感染症		後天性免疫不全症候群		コクシジ オイデス症		ジアルジア症		腎症候性出血熱	
	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積
総 数	-	1	-	-	1	2	1	24	-	16	17	185	-	-	2	10	-	-
北海道	-	-	-	-	-	1	-	1	-	-	-	4	-	-	-	1	-	-
青森県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	3	-	-	-	-	-	-
岩手県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
宮城県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	-	2	-	-	-	-	-	-
秋田県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
山形県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	-	-	-	-	-	-
福島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-
茨城県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5	-	-	-	-	-	-
栃木県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-
群馬県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
埼玉県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5	-	-	-	1	-	-
千葉県	-	-	-	-	-	-	-	2	-	1	1	7	-	-	-	-	-	-
東京都	-	-	-	-	-	-	-	4	-	2	7	57	-	-	1	1	-	-
神奈川県	-	-	-	-	1	1	-	2	-	1	1	9	-	-	1	3	-	-
新潟県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
富山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-	-	-	-	-
石川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	1	-	-	-	-	-	-
福井県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
山梨県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
長野県	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-
岐阜県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-
静岡県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	1	10	-	-	-	1	-	-
愛知県	-	-	-	-	-	-	1	2	-	1	-	14	-	-	-	-	-	-
三重県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	2	-	-	-	-	-	-
滋賀県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
京都府	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
大阪府	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	4	29	-	-	-	1	-	-
兵庫県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-	-	-	-	-
奈良県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
和歌山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-
鳥取県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
島根県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
岡山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	4	-	-	-	-	-	-
広島県	-	-	-	-	-	-	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-
山口県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
徳島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-
香川県	-	1	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
愛媛県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
高知県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
福岡県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	2	-	-	-	1	-	-
佐賀県	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
長崎県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
熊本県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
大分県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
宮崎県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-
鹿児島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
沖縄県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	9	-	-	-	-	-	-

報告数・累積報告数, 疾病・都道府県別

平成17年9週

	髄膜炎菌性髄膜炎		先天性風しん症候群		炭疽		つつが虫病		デング熱		日本紅斑熱		日本脳炎		梅毒		破傷風	
	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積
総数	-	1	-	-	-	-	-	20	1	5	-	-	-	-	4	80	1	9
北海道	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
青森県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
岩手県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-
宮城県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-
秋田県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
山形県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
福島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
茨城県	-	-	-	-	-	-	1	-	1	-	-	-	-	-	1	-	1	-
栃木県	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	1	-	-	-
群馬県	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
埼玉県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-
千葉県	-	-	-	-	-	-	-	1	1	-	-	-	-	-	1	-	1	-
東京都	-	1	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	16	-	-	-
神奈川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5	-	-	-
新潟県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	-	-	-
富山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-
石川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
福井県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
山梨県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
長野県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
岐阜県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
静岡県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-
愛知県	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	1	7	-	-	-
三重県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-
滋賀県	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-
京都府	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-	-
大阪府	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	12	-	-	-
兵庫県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4	-	-	-
奈良県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
和歌山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
鳥取県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
島根県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
岡山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-
広島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	-
山口県	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
徳島県	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
香川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	2	-	-	-
愛媛県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
高知県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-	-
福岡県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4	-	-	-
佐賀県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	1	1	-
長崎県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
熊本県	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	1	4	-	1	-
大分県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
宮崎県	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
鹿児島県	-	-	-	-	-	-	9	-	-	-	-	-	-	-	3	-	1	-
沖縄県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

報告数・累積報告数, 疾病・都道府県別

平成17年9週

	バンコマイシン 耐性腸球菌感染症		ハンタウイルス 肺症候群		Bウイルス病		ブルセラ症		発しんチフス		マラリア		ライム病		レジオネラ症	
	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積
総 数	1	15	-	-	-	-	-	-	-	-	1	10	-	-	1	21
北海道	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
青森県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
岩手県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
宮城県	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
秋田県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
山形県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
福島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	1
茨城県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
栃木県	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
群馬県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
埼玉県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-
千葉県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
東京都	-	4	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	3
神奈川県	-	1	-	-	-	-	-	-	-	1	1	-	-	-	-	-
新潟県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
富山県	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
石川県	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
福井県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
山梨県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
長野県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
岐阜県	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1
静岡県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
愛知県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-
三重県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
滋賀県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
京都府	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
大阪府	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	1
兵庫県	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	1
奈良県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
和歌山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
鳥取県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-
島根県	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
岡山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
広島県	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
山口県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
徳島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
香川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
愛媛県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
高知県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
福岡県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
佐賀県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
長崎県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
熊本県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
大分県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
宮崎県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
鹿児島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
沖縄県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2

報告数・累積報告数, 疾病・都道府県別

平成17年9週

	重症急性 呼吸器症候群		痘 そ う		E型肝炎		ウエストナイル熱 (ウエストナイル脳炎を含む)		A型肝炎		高病原性鳥 インフルエンザ		サ ル 痘		ニバウイルス 感染症		ポツリヌス症	
	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積
総 数	-	-	-	-	1	8	-	-	-	40	-	-	-	-	-	-	-	1
北海道	-	-	-	-	-	1	-	-	-	10	-	-	-	-	-	-	-	-
青森県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
岩手県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
宮城県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
秋田県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
山形県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
福島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
茨城県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
栃木県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
群馬県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
埼玉県	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
千葉県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
東京都	-	-	-	-	-	1	-	-	-	4	-	-	-	-	-	-	-	1
神奈川県	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
新潟県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
富山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
石川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
福井県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
山梨県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
長野県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
岐阜県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-
静岡県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
愛知県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
三重県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
滋賀県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
京都府	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
大阪府	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4	-	-	-	-	-	-	-	-
兵庫県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-
奈良県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
和歌山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
鳥取県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
島根県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
岡山県	-	-	-	-	-	1	-	-	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-
広島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-
山口県	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
徳島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
香川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
愛媛県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
高知県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
福岡県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
佐賀県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
長崎県	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
熊本県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
大分県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
宮崎県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
鹿児島県	-	-	-	-	1	1	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
沖縄県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

報告数・累積報告数, 疾病・都道府県別

平成17年9週

	野 兎 病		リッサウイルス 感染症		レプトスピラ症		急性脳炎		バンコマイシン耐性 黄色ブドウ球菌感染症	
	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積
総 数	-	-	-	-	-	1	6	41	-	-
北海道	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-
青森県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-
岩手県	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-
宮城県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-
秋田県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
山形県	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-
福島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
茨城県	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-
栃木県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-
群馬県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-
埼玉県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
千葉県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-
東京都	-	-	-	-	-	1	-	6	-	-
神奈川県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-
新潟県	-	-	-	-	-	-	2	3	-	-
富山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
石川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
福井県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
山梨県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
長野県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
岐阜県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
静岡県	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-
愛知県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
三重県	-	-	-	-	-	-	1	3	-	-
滋賀県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
京都府	-	-	-	-	-	-	1	1	-	-
大阪府	-	-	-	-	-	-	1	3	-	-
兵庫県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-
奈良県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
和歌山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
鳥取県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
島根県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
岡山県	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-
広島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
山口県	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-
徳島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
香川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
愛媛県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
高知県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
福岡県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
佐賀県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
長崎県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
熊本県	-	-	-	-	-	-	1	2	-	-
大分県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
宮崎県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
鹿児島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
沖縄県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

全数把握疾患表注釈

「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律」の改正(施行日:平成15年11月5日、IDWR週報2003年43号参照)により、全数把握疾患の対象疾患、分類、疾患名の記載方法が一部変更されました。

表でみる「重症急性呼吸器症候群」以降の14の疾患は新システムでの追加疾患、および変更疾患(「乳児ボツリヌス症」「ボツリヌス症」「定点疾患「急性脳炎」全数疾患「急性脳炎」)です。「ウエストナイル熱(ウエストナイル脳炎を含む)」は平成14年11月に追加された疾患です。

旧システムにおける「ウイルス性肝炎」に含まれていた「E型肝炎」「A型肝炎」が独立した疾患となり、新システムにおける「ウイルス性肝炎」はE型肝炎、A型肝炎を除く肝炎となります。

注)表の最後の注釈を参照して下さい。

報告数・定点当り報告数, 疾病・都道府県別

平成17年9週

	インフルエンザ		咽頭結膜熱		A群溶血性 レンサ球菌咽頭炎		感染性胃腸炎		水痘		手足口病		伝染性紅斑		突発性発しん		百日咳	
	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り
総数	235343	50.00	496	0.16	4187	1.37	20652	6.77	5089	1.67	448	0.15	629	0.21	1603	0.53	9	0.00
北海道	15152	66.17	29	0.20	380	2.62	422	2.91	238	1.64	5	0.03	19	0.13	71	0.49	-	-
青森県	3377	51.95	2	0.05	76	1.81	140	3.33	65	1.55	19	0.45	5	0.12	20	0.48	-	-
岩手県	2916	47.03	1	0.03	21	0.57	208	5.62	53	1.43	3	0.08	7	0.19	16	0.43	-	-
宮城県	5417	54.72	4	0.07	121	1.98	590	9.67	106	1.74	26	0.43	21	0.34	47	0.77	-	-
秋田県	3350	60.91	20	0.57	48	1.37	298	8.51	74	2.11	-	-	6	0.17	16	0.46	-	-
山形県	2794	58.21	7	0.23	93	3.10	227	7.57	67	2.23	2	0.07	14	0.47	20	0.67	-	-
福島県	4293	53.66	9	0.19	73	1.52	499	10.40	85	1.77	5	0.10	25	0.52	36	0.75	-	-
茨城県	4788	40.24	7	0.09	71	0.96	254	3.43	93	1.26	7	0.09	11	0.15	24	0.32	-	-
栃木県	2687	38.39	2	0.04	59	1.28	168	3.65	42	0.91	5	0.11	6	0.13	16	0.35	-	-
群馬県	5431	54.31	8	0.13	78	1.26	263	4.24	99	1.60	10	0.16	4	0.06	32	0.52	-	-
埼玉県	10346	40.26	18	0.11	219	1.36	1125	6.99	255	1.58	19	0.12	14	0.09	84	0.52	-	-
千葉県	8482	39.82	12	0.09	212	1.58	717	5.35	202	1.51	16	0.12	27	0.20	79	0.59	1	0.01
東京都	4829	27.13	12	0.08	126	0.89	851	5.99	116	0.82	12	0.08	27	0.19	53	0.37	-	-
神奈川県	12865	38.40	63	0.31	263	1.28	1276	6.19	240	1.17	20	0.10	49	0.24	104	0.50	-	-
新潟県	7472	75.47	16	0.27	132	2.20	249	4.15	91	1.52	14	0.23	4	0.07	22	0.37	-	-
富山県	3042	63.38	3	0.10	83	2.86	313	10.79	68	2.34	1	0.03	17	0.59	16	0.55	-	-
石川県	3450	71.88	10	0.34	62	2.14	275	9.48	53	1.83	8	0.28	6	0.21	9	0.31	-	-
福井県	2602	81.31	15	0.68	25	1.14	400	18.18	55	2.50	1	0.05	3	0.14	10	0.45	-	-
山梨県	1210	29.51	-	-	26	1.04	98	3.92	19	0.76	2	0.08	1	0.04	5	0.20	-	-
長野県	6713	76.28	-	-	128	2.33	363	6.60	137	2.49	3	0.05	4	0.07	41	0.75	1	0.02
岐阜県	3049	36.30	16	0.30	48	0.91	167	3.15	37	0.70	4	0.08	12	0.23	24	0.45	-	-
静岡県	7100	51.82	12	0.14	98	1.14	732	8.51	147	1.71	14	0.16	21	0.24	49	0.57	-	-
愛知県	11475	58.85	29	0.16	164	0.90	989	5.43	244	1.34	6	0.03	15	0.08	97	0.53	-	-
三重県	3022	41.40	16	0.36	40	0.89	476	10.58	74	1.64	8	0.18	3	0.07	29	0.64	-	-
滋賀県	2507	49.16	-	-	33	1.00	133	4.03	69	2.09	1	0.03	-	-	12	0.36	-	-
京都府	5201	42.98	2	0.03	37	0.49	391	5.21	111	1.48	10	0.13	9	0.12	20	0.27	-	-
大阪府	10932	38.09	26	0.13	237	1.20	1078	5.44	208	1.05	37	0.19	30	0.15	90	0.45	1	0.01
兵庫県	10195	52.02	20	0.16	125	0.98	983	7.68	270	2.11	10	0.08	26	0.20	65	0.51	-	-
奈良県	2335	42.45	6	0.17	20	0.57	259	7.40	38	1.09	7	0.20	1	0.03	20	0.57	1	0.03
和歌山県	2361	47.22	6	0.19	29	0.94	210	6.77	76	2.45	12	0.39	6	0.19	17	0.55	1	0.03
鳥取県	1312	45.24	-	-	33	1.74	125	6.58	35	1.84	8	0.42	1	0.05	16	0.84	-	-
島根県	1383	36.39	9	0.39	46	2.00	173	7.52	19	0.83	13	0.57	1	0.04	10	0.43	-	-
岡山県	4659	55.46	3	0.06	63	1.17	379	7.02	86	1.59	11	0.20	7	0.13	18	0.33	-	-
広島県	6087	50.73	15	0.20	81	1.08	742	9.89	110	1.47	8	0.11	11	0.15	39	0.52	-	-
山口県	5011	71.59	15	0.31	83	1.69	529	10.80	99	2.02	-	-	6	0.12	48	0.98	-	-
徳島県	1835	48.29	3	0.13	8	0.35	195	8.48	49	2.13	26	1.13	5	0.22	9	0.39	-	-
香川県	2022	39.65	4	0.13	42	1.31	201	6.28	58	1.81	17	0.53	7	0.22	20	0.63	-	-
愛媛県	3573	55.83	4	0.10	58	1.49	424	10.87	96	2.46	10	0.26	4	0.10	29	0.74	-	-
高知県	3036	61.96	1	0.03	70	2.26	131	4.23	47	1.52	2	0.06	6	0.19	13	0.42	-	-
福岡県	11745	59.32	22	0.18	245	2.04	1277	10.64	347	2.89	30	0.25	91	0.76	93	0.78	1	0.01
佐賀県	1913	54.66	2	0.09	42	1.83	148	6.43	40	1.74	6	0.26	24	1.04	28	1.22	-	-
長崎県	4798	70.56	8	0.18	32	0.73	377	8.57	81	1.84	3	0.07	11	0.25	21	0.48	-	-
熊本県	5880	73.50	14	0.29	53	1.10	367	7.65	78	1.63	2	0.04	6	0.13	28	0.58	2	0.04
大分県	2806	48.38	7	0.19	68	1.89	439	12.19	94	2.61	5	0.14	20	0.56	30	0.83	1	0.03
宮崎県	3805	64.49	7	0.19	65	1.81	535	14.86	127	3.53	6	0.17	5	0.14	32	0.89	-	-
鹿児島県	3989	42.89	11	0.20	62	1.11	408	7.29	153	2.73	11	0.20	31	0.55	20	0.36	-	-
沖縄県	2096	36.14	-	-	9	0.26	48	1.41	138	4.06	3	0.09	-	-	5	0.15	-	-

報告数・定点当り報告数, 疾病・都道府県別

平成17年9週

	風しん		ヘルパンギーナ		麻しん (成人麻しんを除く)		流行性耳下腺炎		急性出血性 結膜炎		流行性角結膜炎		細菌性髄膜炎		無菌性髄膜炎		マイコプラズマ 肺炎	
	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り
総 数	16	0.01	113	0.04	13	0.00	2536	0.83	19	0.03	434	0.68	6	0.01	11	0.02	120	0.26
北海道	3	0.02	1	0.01	1	0.01	45	0.31	-	-	12	0.41	-	-	-	-	3	0.13
青森県	2	0.05	-	-	-	-	11	0.26	-	-	3	0.27	-	-	-	-	4	0.67
岩手県	-	-	-	-	-	-	12	0.32	-	-	8	0.67	-	-	-	-	2	0.10
宮城県	-	-	1	0.02	-	-	21	0.34	1	0.08	7	0.58	-	-	-	-	6	0.50
秋田県	-	-	-	-	1	0.03	4	0.11	1	0.14	4	0.57	-	-	-	-	2	0.29
山形県	-	-	-	-	-	-	31	1.03	-	-	17	2.13	-	-	1	0.10	11	1.10
福島県	1	0.02	-	-	1	0.02	25	0.52	-	-	18	1.50	1	0.14	-	-	3	0.43
茨城県	-	-	-	-	1	0.01	33	0.45	-	-	20	1.25	-	-	-	-	2	0.18
栃木県	1	0.02	2	0.04	-	-	17	0.37	-	-	18	1.50	-	-	-	-	1	0.14
群馬県	-	-	7	0.11	-	-	24	0.39	-	-	32	2.29	-	-	1	0.10	6	0.60
埼玉県	-	-	4	0.02	1	0.01	111	0.69	-	-	28	0.76	-	-	-	-	6	0.67
千葉県	1	0.01	3	0.02	3	0.02	176	1.31	1	0.03	26	0.74	-	-	-	-	-	-
東京都	-	-	5	0.04	-	-	78	0.55	-	-	5	0.36	-	-	-	-	2	0.08
神奈川県	1	0.00	3	0.01	1	0.00	179	0.87	1	0.02	36	0.86	1	0.08	-	-	-	-
新潟県	-	-	2	0.03	-	-	36	0.60	-	-	4	0.44	-	-	-	-	8	0.62
富山県	-	-	1	0.03	-	-	39	1.34	-	-	1	0.14	-	-	-	-	2	0.40
石川県	1	0.03	-	-	-	-	39	1.34	-	-	1	0.14	2	0.40	-	-	-	-
福井県	-	-	-	-	-	-	118	5.36	-	-	1	0.33	-	-	1	0.17	1	0.17
山梨県	-	-	-	-	-	-	7	0.28	-	-	-	-	1	0.10	1	0.10	2	0.20
長野県	-	-	-	-	-	-	26	0.47	-	-	6	0.55	-	-	-	-	8	0.73
岐阜県	-	-	5	0.09	-	-	47	0.89	-	-	9	0.75	-	-	-	-	-	-
静岡県	1	0.01	-	-	-	-	76	0.88	-	-	9	0.45	-	-	-	-	5	0.50
愛知県	-	-	2	0.01	2	0.01	146	0.80	-	-	25	0.71	-	-	-	-	8	0.62
三重県	-	-	-	-	-	-	32	0.71	-	-	10	0.83	-	-	1	0.11	1	0.11
滋賀県	-	-	-	-	-	-	25	0.76	-	-	1	0.14	-	-	-	-	1	0.14
京都府	-	-	3	0.04	-	-	48	0.64	1	0.06	9	0.50	-	-	-	-	-	-
大阪府	1	0.01	11	0.06	-	-	129	0.65	1	0.02	8	0.15	-	-	-	-	8	0.57
兵庫県	1	0.01	5	0.04	-	-	64	0.50	1	0.03	10	0.29	-	-	-	-	1	0.08
奈良県	-	-	-	-	-	-	28	0.80	1	0.11	2	0.22	-	-	-	-	2	0.33
和歌山県	-	-	3	0.10	-	-	23	0.74	-	-	1	0.25	-	-	-	-	1	0.09
鳥取県	-	-	1	0.05	-	-	1	0.05	-	-	-	-	-	-	-	-	1	0.20
島根県	-	-	3	0.13	-	-	4	0.17	-	-	1	0.33	-	-	-	-	-	-
岡山県	-	-	5	0.09	1	0.02	23	0.43	1	0.08	10	0.83	-	-	-	-	4	0.80
広島県	-	-	1	0.01	-	-	109	1.45	-	-	20	1.00	-	-	2	0.11	4	0.21
山口県	-	-	-	-	-	-	43	0.88	1	0.11	10	1.11	-	-	-	-	3	0.33
徳島県	-	-	1	0.04	-	-	13	0.57	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
香川県	-	-	5	0.16	-	-	48	1.50	-	-	2	0.67	-	-	-	-	-	-
愛媛県	-	-	3	0.08	-	-	44	1.13	-	-	6	0.86	-	-	-	-	2	0.33
高知県	1	0.03	4	0.13	-	-	16	0.52	-	-	6	2.00	-	-	-	-	-	-
福岡県	-	-	13	0.11	1	0.01	222	1.85	4	0.15	8	0.31	-	-	-	-	1	0.07
佐賀県	-	-	3	0.13	-	-	63	2.74	-	-	-	-	-	-	-	-	5	0.71
長崎県	1	0.02	-	-	-	-	46	1.05	4	0.50	7	0.88	-	-	-	-	1	0.08
熊本県	-	-	9	0.19	-	-	100	2.08	-	-	8	0.89	1	0.07	2	0.13	1	0.07
大分県	-	-	2	0.06	-	-	33	0.92	-	-	2	0.40	-	-	-	-	-	-
宮崎県	-	-	2	0.06	-	-	52	1.44	-	-	8	2.00	-	-	2	0.29	1	0.14
鹿児島県	-	-	2	0.04	-	-	37	0.66	1	0.14	7	1.00	-	-	-	-	-	-
沖縄県	1	0.03	1	0.03	-	-	32	0.94	-	-	8	0.80	-	-	-	-	1	0.14

報告数・定点当り報告数, 疾病・都道府県別 平成17年9週

	クラミジア肺炎 (オウム病を除く)		成人麻しん		RSウイルス 感染症 報告数
	報告数	定点当り	報告数	定点当り	
総 数	5	0.01	-	-	80
北海道	-	-	-	-	4
青森県	-	-	-	-	...
岩手県	-	-	-	-	...
宮城県	-	-	-	-	-
秋田県	-	-	-	-	-
山形県	-	-	-	-	-
福島県	2	0.29	-	-	2
茨城県	-	-	-	-	1
栃木県	-	-	-	-	-
群馬県	-	-	-	-	...
埼玉県	-	-	-	-	-
千葉県	2	0.22	-	-	-
東京都	-	-	-	-	7
神奈川県	-	-	-	-	3
新潟県	-	-	-	-	2
富山県	-	-	-	-	1
石川県	-	-	-	-	-
福井県	-	-	-	-	-
山梨県	1	0.10	-	-	...
長野県	-	-	-	-	...
岐阜県	-	-	-	-	-
静岡県	-	-	-	-	...
愛知県	-	-	-	-	4
三重県	-	-	-	-	1
滋賀県	-	-	-	-	-
京都府	-	-	-	-	-
大阪府	-	-	-	-	21
兵庫県	-	-	-	-	7
奈良県	-	-	-	-	...
和歌山県	-	-	-	-	1
鳥取県	-	-	-	-	1
島根県	-	-	-	-	-
岡山県	-	-	-	-	...
広島県	-	-	-	-	5
山口県	-	-	-	-	5
徳島県	-	-	-	-	...
香川県	-	-	-	-	...
愛媛県	-	-	-	-	3
高知県	-	-	-	-	9
福岡県	-	-	-	-	...
佐賀県	-	-	-	-	1
長崎県	-	-	-	-	1
熊本県	-	-	-	-	...
大分県	-	-	-	-	...
宮崎県	-	-	-	-	...
鹿児島県	-	-	-	-	-
沖縄県	-	-	-	-	1

定点把握疾患表注釈

「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律」の改正(施行日:平成15年11月5日、IDWR週報2003年43号参照)により、定点把握疾患の対象疾患、分類、疾患名の記載方法が一部変更されました。

改正により「RSウイルス感染症」が追加されましたが、ゼロ報告も含めて報告自体がなされていない都道府県(…)が多く見られ、その報告はまだ十分ではありません。そのため、「感染症週報」の情報還元としては、報告数のみの掲載とします。宜しく御理解ください。

獣医師が届出を行う感染症と対象動物

平成16年10月1日より感染症法に基づく獣医師が届出を行う感染症と対象動物が追加されました。
*病原体がSARSコロナウイルスであるものに限る。

報告数・累積報告数, 疾病・都道府県別

平成17年9週

	エボラ出血熱		マールブルグ病		ペスト		重症急性呼吸器症候群*						細菌性赤痢		ウエストナイル熱		エキノコックス症	
	サル		サル		プレーリードッグ	イタチアナグマ		タヌキ		ハクビシン		サル		鳥類		犬		
	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積
総 数	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5	-	-	-	1	
北海道	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	
青森県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
岩手県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
宮城県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
秋田県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
山形県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
福島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
茨城県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5	-	-	-	-	
栃木県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
群馬県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
埼玉県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
千葉県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
東京都	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
神奈川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
新潟県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
富山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
石川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
福井県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
山梨県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
長野県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
岐阜県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
静岡県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
愛知県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
三重県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
滋賀県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
京都府	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
大阪府	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
兵庫県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
奈良県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
和歌山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
鳥取県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
島根県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
岡山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
広島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
山口県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
徳島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
香川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
愛媛県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
高知県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
福岡県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
佐賀県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
長崎県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
熊本県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
大分県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
宮崎県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
鹿児島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
沖縄県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	

感染症週報 第7巻 第9号 平成17年3月18日発行
発行：国立感染症研究所
厚生労働省健康局結核感染症課
厚生労働省大臣官房統計情報部
事務局：国立感染症研究所感染症情報センター
〒162-8640東京都新宿区戸山1-23-1
T E L : 03-5285-1111
F A X : 03-5285-1129
U R L : <http://idsc.nih.go.jp/index-j.html>
< 国立感染症研究所 感染症情報センター >
<http://www.mhlw.go.jp/>
< 厚生労働省 >
<http://www.forth.go.jp/>
< 旅行者のための海外感染症情報(厚生労働省検疫所) >

本週報は、感染症新法に基づくものであり、全国の医療従事者、定点医療機関、保健所、保健所設置市、特別区、都道府県、地方衛生研究所、検疫所の皆様のご協力を得て、国立感染症研究所感染症情報センターにおいて編集したものです。

また、本週報は速報性を重視しておりますので、今後調査などの結果に応じて、若干の変更が生じることがありますが、その場合には週報上にて訂正させていただきます。

「感染症の話」及び「読者のコーナー」の回答欄の内容に関する責は、それぞれの執筆者及び回答者に属しますが、内容に関するご質問、ご意見については事務局でお受けいたします。

なお、週報の内容について、学術的研究、あるいは公衆衛生活動にかかわる業務以外の目的においては、無断転載を禁じます。